

2023年度

シラバス

社会学研究科

立教大学

作成日:2023 年 03 月 18 日

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB041／社会学基礎論 (Foundations of Sociology)		
担当者名 (Instructor)	松本 康(MATSUMOTO YASUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

大学院レベルでの社会学的研究に必要な理論的基礎について理解を深める。理論的研究を志す学生はもちろんのこと、経験的研究を志す学生にとっても、各自の研究を理論的に定位することができるようにする。あわせて研究倫理についても研修する。

The objective of this course is to introduce students to basic understanding of sociological theories required at the graduate level. It enables those who address empirical research, as well as those interested in theoretical issues, to consider individual study theoretically. The course also gives instruction on research ethics.

授業の内容 (Course Contents)

社会学は、市民革命と産業革命を背景として、18 世紀末から 19 世紀初頭にヨーロッパにおいて形成され、20 世紀に入って、米国で著しい発展をみた。この授業では、草創期の社会学(サンシモン、コント、スペンサー)の概要を理解したうえで、闘争理論(マルクス)、社会学的実証主義(デュルケム)、相互作用論(ジンメル)、理解社会学(ヴェーバー)など 19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学の展開を追うとともに、米国における社会学理論の発展を、シカゴ学派、構造機能主義、コロンビア学派の 3 つの系譜によって整理する。

Sociology was shaped during the late 18th and early 19th centuries with bourgeois and industrial revolutions as backdrop and has prominently developed in the 20th century in the US. This course introduces students to sociological thoughts in the early days (Saint-Simon, August Comte, and Herbert Spencer), followed by conflict theory (Karl Marx), interactionism (Georg Simmel), and interpretive sociology (Max Weber) developed during the 19th and early 20th centuries in Europe, and describes trends of American sociology in the 20th century focusing on the Chicago School, structural functionalism, and the Columbia School of Quantitative Sociology; all three are the starting points of contemporary sociology.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 草創期の社会学: サンシモン、コント、スペンサー
3. 闘争理論の源流: カール・マルクス
4. 社会学的実証主義: エミール・デュルケム
5. 相互作用と社会化の諸形式: ゲオルク・ジンメル
6. 討論: マルクス、デュルケム、ジンメル
7. 都市と社会改革: ロバート・パークとシカゴ学派
8. 理解社会学: マックス・ヴェーバー
9. 構造機能主義(1): タルコット・パーソンズ
10. 討論: シカゴ学派、ヴェーバー、パーソンズ
11. 構造機能主義(2): マートンとスメルサー
12. 計量社会学: ラザースフェルドとコロンビア学派
13. シンボリック相互作用論と現象学的社会学
14. 討論: マートン、ラザースフェルド、ブルーマー

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

リーディング・アサインメントにもとづく小レポート課題を授業期間中 10 回課す。また、討論の回までにそれまでの講義内容を復習し、疑問点を整理しておくこと。授業期間中に、JSPS 研究倫理 e ラーニングコースを修了すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

小レポート 10 回分(70%)/授業へのリアクション(30%)

eL CoRE (JSPS 研究倫理 e ラーニングコース)を修了していない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト (Textbooks)

授業時にレジュメを配布する。リーディング・アサインメントの教材は Blackboard 上でも利用できる。

参考文献(Readings)

1. C.W.ミルズ、2017 年、『社会学的想像力』、筑摩書房 (ISBN:4480097813)
 2. マルクス＝エンゲルス、1952 年、『共産党宣言 共産主義の原理』、大月書店
 3. デュルケム、1978 年、『社会学的方法の規準』、岩波書店 (ISBN:4003421434)
 4. 松本康編、2011 年、『都市社会学セレクション 1 近代アーバニズム』、日本評論社 (ISBN:453558592X)
 5. マックス・ヴェーバー、1972 年、『社会学の根本概念』、岩波書店 (ISBN:4003420969)
 6. タルコット・パーソンズ、1974 年、『社会体系論』、青木書店 (ISBN:425074017X)
 7. ロバート・K・マートン、1961 年、『社会理論と社会構造』、みすず書房 (ISBN:4622017059)
 8. ラザースフェルド他『ピープルズ・チョイス』芦書房、1987 年
 9. ハーバート・ブルーマー『シンボリック相互作用論』勁草書房、1991 年
- 翻訳については、他の版を使用してもかまわないし、外国語訳を使用してもかまわない。入手不可能なものは、図書館を利用すること。詳細は第 1 回目に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

小レポート及び eL CoRE 修了証の提出は原則として Blackboard を使用する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB051／現代社会学理論 (Modern Sociological Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	批判的社会理論を読む		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は現代社会学理論の潮流を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今回は「批判的社会理論」の思考枠組をとらえるために、「社会学」、「哲学」、「美学」の関連について学んでいきたい。
発表は、文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 文献講読

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでいることを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表と討論(100%)

テキスト (Textbooks)

1. Theodor W. Adorno, Walter Benjamin, Ernst Bloch, Bertolt Brecht, Georg Lukacs. 2020. Aesthetics and Politics. Verso Books
 2. Theodor W. Adorno. 2019. Philosophical Elements of a Theory of Society. Polity
 3. Henrik Kaare Nielsen. 2018. Aesthetics and Political Culture in Modern Society. Routledge
 4. Theodor W Adorno. 2020. The Culture Industry: Selected Essays on Mass Culture. Routledge
 5. David Jenemann. 2007. Adorno in America. Univ Of Minnesota Press
- 上述にあげたものはあくまで候補であり、実際には受講生との相談の上、読んでいく書物を決めたい。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB052／相互行為論 (Social Interactionl Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	相互行為論の基本的な考え方		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会学における相互行為論の基本的な考え方を理解する。

The purpose of this class is to understand the basic ideas of social interactions in sociology.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、E.ゴフマンの著作およびエスノメソドロジー・会話分析を含む、相互行為研究について検討する。また、参加者の関心に従って、具体的な事例分析の検討を行う機会を設ける予定である。

In this class, we will explore directions of studies of social interactions, including E. Goffman's work, Ethnomethodology and conversation analysis. We will also set up opportunities for case analysis according to the participants' interests.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献の報告・事例の検討
3. 文献の報告・事例の検討
4. 文献の報告・事例の検討
5. 文献の報告・事例の検討
6. 文献の報告・事例の検討
7. 文献の報告・事例の検討
8. 文献の報告・事例の検討
9. 文献の報告・事例の検討
10. 文献の報告・事例の検討
11. 文献の報告・事例の検討
12. 文献の報告・事例の検討
13. 文献の報告・事例の検討
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加の積極性(50%)／報告・発表内容(50%)

テキスト (Textbooks)

授業時に指示する。

参考文献 (Readings)

授業時に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB053／社会階層論 (Social Stratification)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	格差と不平等の社会学		
担当者名 (Instructor)	永吉 希久子(NAGAYOSHI KIKUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目的は、社会階層研究の日本語・英語の文献を通して、格差がどのように生じているのかについて考えるための土台となる知識を身につけ、議論できるようになることにある。学生は割り当てられた文献のレビューを行い、コメントをつけてプレゼンを行うこと、またそのプレゼンに対しディスカッションを行うことが求められる。

This seminar aims to provide students with foundational knowledge for thinking about and discussing how inequality arises through the Japanese and English literature on the study of social stratification. Students will be required to review the assigned literature and make a presentation with comments. Following the report by the student in charge, all students will engage in a discussion.

授業の内容 (Course Contents)

授業では初回に担当を割り振り、担当回の学生は、予め社会階層に関するテキストの指定範囲、もしくは指定した日本語・英語論文のレビューを行い、授業で報告する。この報告を通し、社会階層と不平等研究の基本的な概念や理論的な枠組みの知識を身につけることが期待される。なお、授業で扱う論文では高度な統計的手法が用られている可能性があるが、そうした分析手法に関する予備的知識は要しない。必要に応じて、それらの方法については講師が解説を加える。授業の目的は統計的手法の習得ではなく、論文の中の理論的・実質的な内容の理解にある。

In the first session of the class, students will be assigned a literature review. The student in charge of the assigned session will review a specified range of texts or a selected Japanese/English article on social stratification and report it in class. Through these reports, students are expected to acquire knowledge of the basic concepts and theoretical frameworks of social stratification and inequality research. The assigned literature may use advanced statistical methods, but no prior knowledge of such methods is required. If necessary, the instructor explains those methods. The focus in a class is on the theoretical arguments of the paper, not statistical methods.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション・分担の割り当て
2. テキスト 1 章・2 章
3. テキスト 3 章・4 章
4. テキスト 5 章・6 章
5. テキスト 7 章・8 章
6. テキスト 9 章・10 章
7. 社会階層に関する論文の輪読1
8. 社会階層に関する論文の輪読2
9. 社会階層に関する論文の輪読3
10. 社会階層に関する論文の輪読4
11. 社会階層に関する論文の輪読5
12. 社会階層に関する論文の輪読6
13. 社会階層に関する論文の輪読7
14. 社会階層に関する論文の輪読8

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定文献は予め目を通しておくこと。発表担当者はレジュメを用意する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当回での報告(70%)/授業への貢献(発言など)(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 平沢和司、2021、『格差の社会学入門(第2版)』、北海道大学出版会 (ISBN:9784832968813)

テキストは入手しておく。その他の論文は、初回に案内する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

初回に授業の方針を説明し、割り当ても行うので、履修希望者は必ず出席すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB054／ジェンダーとセクシュアリティ (Gender and Sexuality)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	東アジアのフェミニズムと日本の脱帝国主義		
担当者名 (Instructor)	熱田 敬子(ATSUTA KEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- (1) フェミニズムと、ポストコロニアルな状況、侵略戦争、新旧の帝国主義、民主化などの歴史・社会構造の関係を理解できるようになること。
 (2) 現在のフェミニズムの課題が、東アジアの諸地域で互いにつながっていることを知ること。

- (1) Students acquire understanding the relationship between feminism and historical and social structures such as post-colonial situations, military aggression, new and old imperialism, and democratization.
 (2) Students acquire understanding that current East Asian feminist issues are interconnected in various regions.

授業の内容 (Course Contents)

フェミニズムが、いま「ブーム」になっているという。

しかし、日本を例にとれば、つい 10 年ほど前までフェミニズム、男女平等、性の多様性などへの激しい攻撃、ジェンダー・バックラッシュが起きていた。保守的なジェンダー秩序は、天皇制・戸籍などの基礎として日本社会に埋め込まれ、日本の植民地構造を維持、復活させようとする右派勢力はそれを強化しようとしている。

東アジアの諸地域における多くのフェミニズムの課題は、このようにインターセクショナルな歴史・社会構造を抜きに理解できない。本演習では、中国・韓国・台湾・香港と日本で起きている現在進行形の問題から、フェミニズムと、植民地支配とその後のポストコロニアルな状況、侵略戦争、新旧の帝国主義、民主化などの歴史・社会構造の関係を分析、考察する。

Feminism is said to be in a "boom" right now.

However, taking Japan as an example, about 10 years ago there was a violent attack on feminism, gender equality, and gender diversity. It is called gender backlash. A conservative gender order is embedded in Japanese society as the foundation of the Emperor system and family register, and right-wing forces that want to maintain and revive Japan's colonial structure are trying to strengthen it.

We cannot understand feminist issues in various regions of East Asia without intersectional historical and social structures.

In this class, we read and research about the ongoing feminism issues in China, South Korea, Taiwan, Hong Kong, and Japan. These issues deeply concerning with post-colonial situation, invasions, new and old imperialism, democratization, etc. Students acquire analyzing and considering the relationship between feminism issues and history / social structure as intersectionality.

授業計画 (Course Schedule)

- ガイダンス
- 概論：東アジアのフェミニズム
- 差別構造としての日本社会(1)戸籍・天皇制・結婚
- 差別構造としての日本社会(2)歴史否定・ジェンダーバックラッシュ・ヘイトスピーチ
- 差別構造としての日本社会(3)結節点としての日本軍性暴力／性奴隷制
- 中国におけるフェミニズム(1)社会主義と草の根フェミニズム
- 中国におけるフェミニズム(2)陰道独白とクィア・アクティビズム
- 韓国におけるフェミニズム(1)民主化運動とフェミニズム
- 韓国におけるフェミニズム(2)#MeTooと脱植民地
- 台湾におけるフェミニズム(1)阿嬤たちの戦後
- 台湾におけるフェミニズム(2)セックスワークか女性の保護か
- 香港におけるフェミニズム(1)民主化運動とフェミニズム
- 香港におけるフェミニズム(2)教会とフェミニズム
- まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

演習では毎回、課題文を事前に読んで参加することを求める。

担当者を決めて発表も課すため、発表の準備にも取り組む必要がある。

また、数回程度、博物館などを課外で見学することを求める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/授業内での発表・小課題(30%)/平常点(ディスカッション参加・考察記入)(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 熱田敬子・金美珍・梁永山聡子・張瑋容・曹曉彤編著、2022、『ハッシュタグだけじゃ始まらないー東アジアのフェミニズム・ムーブメント』、大月書店 (ISBN: 9784272350575)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB055／人種とエスニシティ (Race and Ethnicity)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人種・エスニシティをめぐる社会学(人類学)理論を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

教科書と具体的な事例分析を通じ、人種とエスニシティをめぐる論点についてより掘り下げた理解を深め、各自の修士論文に活かすことができる視座を発見することを、本授業の目標とする。

Students will deepen their understanding of arguments about human race and ethnicity by analyzing specific cases and studying textbooks. Students will aim to discover perspective useful for their master theses.

授業の内容 (Course Contents)

履修者の修士論文の主題と人数に応じて、適切な数と内容の論文を取り上げ、グローバル化をめぐる社会学・人類学の主要な理論について掘り下げて学んでいく。

Professor will select suitable and enough theses depending on students' master thesis subjects and number of students. Students will dig deeper into major sociology and anthropology theories surrounding globalization.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献購読＋グループ・ディスカッション 1
3. 文献購読＋グループ・ディスカッション 2
4. 文献購読＋グループ・ディスカッション 3
5. 文献購読＋グループ・ディスカッション 4
6. 文献購読＋グループ・ディスカッション 5
7. 文献購読＋グループ・ディスカッション 6
8. 文献購読＋グループ・ディスカッション 7
9. 文献購読＋グループ・ディスカッション 8
10. 文献購読＋グループ・ディスカッション 9
11. 文献購読＋グループ・ディスカッション 10
12. 文献購読＋グループ・ディスカッション 11
13. 文献購読＋グループ・ディスカッション 12
14. 文献購読＋グループ・ディスカッション 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席・報告内容・ディスカッションへの貢献度によって、総合的に評価する(100%)

テキスト (Textbooks)

初回授業で履修者の専門を確認のうえ、指定する。

参考文献 (Readings)

適宜、授業のなかで提示していく。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB056／社会老年学 (Social Gerontology)		
担当者名 (Instructor)	安藤 孝敏(ANDO TAKATOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「高齢社会における高齢者」の理解を中心に据え、自分の研究課題や問題意識と関連させて、社会老年学とはどういう学問であるのかを理解する。

Students will focus on understanding senior citizens living in aging society. Students will understand social gerontology by linking it with their research subjects and issue awareness.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は、社会老年学の最新の文献から、受講者が興味・関心のある文献を選んで発表し、その内容についてディスカッションする形式で進める。発表する文献は事前に配布し、当日はその文献の内容をまとめたレジュメなどを用意する。発表する文献は受講者と協議して決定する。

In this class, students will select and present articles that they are interested in from the latest literature on social gerontology, and proceed in a format in which they discuss the content. Papers to be presented will be distributed in advance, and a resume summarizing the contents of the papers will be prepared on the day. The literature to be presented will be decided in consultation with the students.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献の発表とディスカッション
3. 文献の発表とディスカッション
4. 文献の発表とディスカッション
5. 文献の発表とディスカッション
6. 文献の発表とディスカッション
7. 文献の発表とディスカッション
8. 文献の発表とディスカッション
9. 文献の発表とディスカッション
10. 文献の発表とディスカッション
11. 文献の発表とディスカッション
12. 文献の発表とディスカッション
13. 文献の発表とディスカッション
14. 全体のまとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

発表に基づきディスカッションを行うので、発表者は前もって議論すべき論点を整理してくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表資料の準備と発表内容(40%) / ディスカッションへの参加度(40%) / まとめのレポート(20%)

テキスト (Textbooks)

使用しない。関係資料など適宜、提供する。

参考文献 (Readings)

授業内で適時紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB057／家族社会学 (Sociology of Family)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「家族の多様化」を考える。(Considering the “Diversification of Family“.)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆 (HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、家族と親密な関係についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、「家族の多様化」のあり方を理解、分析するための理論の習得を目指す。

Through a review and discussion of national and international literature on families and intimate relationships, students will learn theories for understanding and analyzing the nature of the “Diversification of Family”.

授業の内容 (Course Contents)

近年、欧米先進諸国を中心として「家族の多様化」が注目を集めており、国内外の家族研究ではその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論、政治哲学など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族研究はこうした動向を知ることなしに理解することは難しい。

本講義では、こうした近年の国内外の家族研究の動向を学ぶ。具体的には、研究動向に関する文献や、現代家族の状況に関する質的研究の文献を講読し、ディスカッションする。

In recent years, “Diversification of Family” has attracted much attention, particularly in Europe and the United States. Theoretical studies to grasp the current situation have flourished in domestic and international family studies. In addition, the field of contemporary family studies has begun to actively introduce knowledge from other fields, such as feminism, queer theory, and political philosophy. It is difficult to understand contemporary family studies without being aware of these trends.

In this lecture, students will learn about these recent domestic and international trends in family research, with a specific focus on reviewing and discussing the literature on research trends and qualitative research on contemporary family situations.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：文献の選定と割り当て
2. 文献講読とディスカッション 1
3. 文献講読とディスカッション 2
4. 文献講読とディスカッション 3
5. 文献講読とディスカッション 4
6. 文献講読とディスカッション 5
7. 文献講読とディスカッション 6
8. 文献講読とディスカッション 7
9. 文献講読とディスカッション 8
10. 文献講読とディスカッション 9
11. 文献講読とディスカッション 10
12. 文献講読とディスカッション 11
13. 文献講読とディスカッション 12
14. 文献講読とディスカッション 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(50%)/出席、議論の参加(50%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献(Readings)

1. Deborah Chambers & Pablo Gracia. 2021. A Sociology of Family Life. Polity (ISBN:978-1509541355)
講義中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB058／宗教社会学 (Sociology of Religion)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	宗教社会学の入門(＊なお、大学院には「[基礎科目としての]宗教社会学[この科目]」「宗教社会学演習」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること)		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代的な宗教社会学の基礎文献の輪読を通じて、宗教と社会の現在について考察する。

Through a reading of the basic literature of contemporary sociology of religion, the course will examine the present state of religion and society.

授業の内容(Course Contents)

草創期の社会学では、宗教とは、消えゆく前近代の秩序を代表するものであり、それゆえに社会学の関心の中心にあった。このクラスでは、基礎科目として、現代社会における宗教を社会学的にどうとらえるのかということを、輪読やディスカッションによって検討する。映像資料を見る回も設ける。

In pioneering sociology, religion represented a vanishing pre-modern order and was therefore central to sociological concerns. In this class, as a foundational course, we will examine how religion in contemporary society is viewed sociologically through readings and discussions. There will also be times to view video materials.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 学生による発表1
3. 学生による発表2
4. 学生による発表3
5. 映像資料1
6. 輪読1
7. 輪読2
8. 輪読3
9. 映像資料2
10. 輪読4
11. 輪読5
12. 輪読6
13. 映像資料3
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

課題文献の読み込み等。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表(50%)／発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物)(50%)

テキスト(Textbooks)

随時指示する。

参考文献(Readings)

1. Adam Possamai. 2017. *The i-zation of Society, Religion, and Neoliberal Post-Secularism*. Palgrave Macmillan
2. Adam Possamai. 2009. *Sociology of Religion for Generations X and Y*. Routledge
3. メレディス・B・マクガイア、2008、『宗教社会学：宗教と社会のダイナミクス』、明石書店

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

その他の諸注意:

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB060／産業・労働社会学 (Sociology of Work)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	産業・労働社会学における方法論研究		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

産業・労働社会学における方法論を検討し、理解する。

Students will review and understand qualitative researches in industry and labor sociology.

授業の内容 (Course Contents)

産業・労働社会学において、方法論としてインタビューや参与観察などを用いる質的研究は主流といってもよいほど、多くの研究がある。また多くの名著がある。近年、労働研究にオーラルヒストリーの方法やグラウンデッド・セオリー・アプローチの適用を試みる研究が出ている一方、質的研究が少なくなるなど主流ではなくなったという指摘もある。授業では、産業・労働社会学の質的研究の文献を講読し、産業・労働社会学の方法論について検討するとともに、質的研究が少なくなった背景やその原因についても検討する。講読する質的研究の文献は、初回で受講生と相談して決める。

There are many researches in industry and labor sociology, notably qualitative researches using methodologies such as interviews and participative observations. There are many great works too. In recent years, some have pointed out decrease of qualitative researches, while there are applications of oral-history method and grounded-theory approach to labor researches. In this class, students will read qualitative research literatures in industry and labor sociology. Students will discuss methodologies of industry and labor sociology. At the same time, they will also discuss contexts and reasons which qualitative researches decline. At the first class, students will discuss with professor to determine qualitative research literatures to be read.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: 講読文献の紹介
2. 文献講読及びディスカッション
3. 文献講読及びディスカッション
4. 文献講読及びディスカッション
5. 文献講読及びディスカッション
6. 文献講読及びディスカッション
7. 文献講読及びディスカッション
8. 文献講読及びディスカッション
9. 文献講読及びディスカッション
10. 文献講読及びディスカッション
11. 文献講読及びディスカッション
12. 受講生の研究発表
13. 受講生の研究発表
14. 講読諸文献に関する総括ディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で講読する文献を授業前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内発表(50%)/研究発表(20%)/ディスカッションへの参加(30%)

テキスト (Textbooks)

初回で提示する。

参考文献 (Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB061／都市社会学 (Urban Sociology)		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

学部での社会学の学びを前提として、大学院レベルでの都市社会学に関する基本的な視座・理論・方法についての知識を得ること。

The purpose of this course is to introduce key concepts of urban sociology and to examine contemporary urban issues.

授業の内容 (Course Contents)

都市社会学の基本的な視座・理論・方法について、講義および基礎的文献の講読を通して学ぶとともに、ディスカッションなどを通して、都市社会学および現代都市の問題への理解を深めていく。授業の内容については受講者の数、学習レベル、希望などを踏まえて変更することがある。

The course will discuss basic concepts of urban sociology to understand urban society and urban life. Also, this course will read articles related to contemporary urban issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 講義(1) シカゴ学派の視点その1
3. 講義(2) シカゴ学派の視点その2
4. 講義(3) シカゴ学派の方法
5. 文献講読とディスカッション(1)
6. 文献講読とディスカッション(2)
7. 文献講読とディスカッション(3)
8. 講義(4) 新都市社会学の視点
9. 講義(5) 新都市社会学以降の展開
10. 文献講読とディスカッション(4)
11. 文献講読とディスカッション(5)
12. 文献講読とディスカッション(6)
13. 講義(7) 日本の都市社会学の展開
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定された文献のほか、必要な都市社会学およびその周辺領域の文献を積極的に講読すること。また、授業のディスカッションに積極的参加して、発言することを求める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加状況および中間レポートの総合評価(100%)

テキスト (Textbooks)

初回の授業時に、受講生の状況および希望を勘案して決定する。基本的には日本語文献を選択する予定であるが、場合によっては英語文献とすることもありうる。

参考文献 (Readings)

1. 松本康編、2022、『都市社会学・入門』改訂版、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22207-6)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB062／環境社会学 (Environmental Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	環境社会学の諸理論		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

環境社会学を生み出した時代背景を学ぶとともに、「環境」をめぐる制度化の進展とそれを促した理論に親しむ。また、その議論を博士論文との関連づけて考察する。

Students will learn about the historical background that gave rise to environmental sociology and become familiar with the institutionalization of the "environment" and the theories that prompted it. The participants' research topics will also be discussed from the perspective of environmental sociology.

授業の内容 (Course Contents)

環境社会学を生み出していく時代を読む。

前半は読書マラソンの内容を確認しながら、そこに注釈を加えていく形式となる。

受講生の課題としているテーマ報告をはさみつつ、環境関連課題に基づく文献検索を行い、環境を巡る議論を理論的におさえていく。テーマ報告においては、理論的な視座について検討・議論する。

In this course, we will read papers that provide the historical background that has produced environmental sociology. The first half of the seminar will be a review of papers in environmental sociology.

In the second half, students will report on their paper topics and discuss them from the perspective of environmental sociology.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読1
3. 文献講読2
4. 文献講読3
5. 文献講読4
6. テーマ報告1
7. テーマ報告2
8. テーマ報告3
9. 課題報告1
10. 課題報告2
11. 課題報告3
12. 課題報告4
13. 課題報告5
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の文献の講読とメモの作成、課題に基づくレジュメの作成。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／毎回の文献報告と議論(60%)

テキスト (Textbooks)

追って指示するが、シリーズ環境社会学(新曜社)、講座環境社会学(有斐閣)などを想定。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB063／メディア社会学 (Sociology of Media)		
担当者名 (Instructor)	井川 充雄(IKAWA MITSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディア社会学の基礎的知識を習得するとともに、その射程の広がりを理解する。

Students will acquire basic knowledge of media sociology and understand the breadth of its scope.

授業の内容 (Course Contents)

メディア社会学とは、きわめて学際的な学問である。近年のメディアの大きな変容とともに、メディア社会学の扱う領域も拡大している。

本授業では、テキストの精読を通して、メディア社会学について多角的に学ぶ。このことによって、履修者は、これから行う自分の研究の基礎を築いてほしい。

In recent years, media has developed rapidly thanks to technological progress, spreading its influence. Media sociology is a highly interdisciplinary discipline. Along with the recent major transformation of the media, the field of media sociology is also expanding.

In this class, students will learn about media sociology from various perspectives through close reading of texts. Through these, students will build the foundation of the future researches.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『入門メディア社会学』(1)
3. 『入門メディア社会学』(2)
4. 『入門メディア社会学』(3)
5. 『入門メディア社会学』(4)
6. 『入門メディア社会学』(5)
7. 『入門メディア社会学』(6)
8. 『入門メディア社会学』(7)
9. 『入門メディア社会学』(8)
10. 『入門メディア社会学』(9)
11. 『入門メディア社会学』(10)
12. 『入門メディア社会学』(11)
13. 『入門メディア社会学』(12)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深める必要がある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の発表(60%)／授業内の討論(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 井川充雄・木村忠正編、2022、『入門メディア社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623094271)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB064／文化人類学 (Cultural Anthropology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化人類学的理論を詳しく理解し、民族誌の古典を精読することで、人類学的視点を習得する。		
担当者名 (Instructor)	四條 真也(SHIJO MASAYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

人類学的に文化を理解するための基礎理論を習得する。

Students will learn basic theories to understand anthropological cultures.

授業の内容 (Course Contents)

本授業では、文化人類学に関する理論展開に大きな影響を与えてきた、議論および研究を詳しく取り上げ検討することで、当該分野における研究史の通時的理解を深めます。

授業では、受講生が回毎に指定された論文の内容と関連する概念や理論について発表を行います。また、受講者全員で発表の内容を議論し、文化人類学についての総合的な理解を深めます。

In this class, students will study and discuss arguments and researches with great impact on cultural anthropology theory development. Students will follow and study research history in relevant fields.

In this class, students will make presentations on specified papers, relevant concepts, and theories each time. All students will then discuss the presentations to deepen their cultural anthropology understanding comprehensively.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文化人類学における基本的な諸概念の整理
3. 文化の原初をめぐる議論—フレイザー
4. 人類学の萌芽—マリノフスキー
5. 人類による神話の創造①—レヴィ＝ストロース
6. 人類による神話の創造②—レヴィ＝ストロース
7. 家族の形、夫婦の形①—プリチャード
8. 家族の形、夫婦の形②—プリチャード
9. 「語り」に耳を傾ける①—クラパンザーノ
10. 「語り」に耳を傾ける②—クラパンザーノ
11. 外から見る日本①—ベネディクト
12. 外から見る日本②—ベネディクト
13. 国家の姿とは？①—アンダーソン
14. 国家の姿とは？②—アンダーソン

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

各回使用する課題は必ず熟読し、授業に臨みましょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表およびディスカッションへの参加(100%)

発表内容に関するディスカッションにも、積極的に参加することを期待しています。

テキスト (Textbooks)

1. ジェームズ・フレイザー、2003、『初版 金枝篇(上・下)』、筑摩書房
 2. ルース・ベネディクト、2008、『菊と刀』、光文社
 3. ベネディクト・アンダーソン、1997、『増補 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』、NTT 出版
- 授業で扱う箇所を配布します。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

- ・履修人数などによって、発表スケジュールを変更することがあります。発表スケジュールは初回授業で決定します。
- ・本授業は個人発表と、毎回のディスカッションへの参加姿勢を中心に評価を行います。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB065／カルチュラルスタディーズ (Cultural Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化に対する批判的研究と、実践のために		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

文化研究(カルチュラルスタディーズ)に関する理論的研究と文化実践を、大学院レベルでおこなっていくための基礎的視座を得ること。

This course provides an opportunity to study basic theories and have practical experiences of Cultural Studies at postgraduate level.

授業の内容 (Course Contents)

近現代における諸文化と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する文化批評理論などの理論研究を行うとともに、随時、フィールドワークやグループワークなどを行う。また、各自の問題意識やテーマに基づいた研究発表およびディスカッションなども実施する。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- field research, practical projects
- research presentations

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション、研究紹介
2. フィールドワーク準備
3. 文献講読・ディスカッション
4. 文献講読・ディスカッション
5. 文献講読・ディスカッション
6. フィールドワーク／プロジェクト
7. 文献講読・ディスカッション
8. 文献講読・ディスカッション
9. 文献講読・ディスカッション
10. フィールドワーク／プロジェクト
11. 研究発表、グループメンタリング
12. 研究発表、グループメンタリング
13. 研究発表、グループメンタリング
14. グループ・プレゼンテーション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献講読、ならびにグループプレゼンテーションや研究発表では、事前の発表準備等が必須となる。また授業中に取り扱う理論や実践活動にかんして、自ら調査をおこなうことで、授業内容への理解を深めるとともに、自身の研究課題との関連性を見出していくことが期待される。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加(文献講読・グループワーク・研究発表・ディスカッションへの参加ほか)(100%)

テキスト (Textbooks)

履修者の関心に合わせ、指定する。なお英語文献が含まれることもある。

参考文献 (Readings)

都度、紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB066／科学技術社会論 (Science and Technology Studies)		
担当者名 (Instructor)	綾部 広則(AYABE HIRONORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

科学技術と社会を考えるための基本的知識を身につける。

Students will acquire basic knowledge for a better understanding of the relationship between science, technology and society.

授業の内容 (Course Contents)

科学技術と社会に関する講義と基本文献の講読を行う。受講者数にもよるが、最初の数回程度は、科学技術社会論の概略を講義し、その上で、残りを基本文献の輪読にあてる予定(文献についてはオリエンテーションの折に相談して決める)。なお、科学技術と銘打っているが、自然科学・工学に関する予備知識は必要としないので、安心して受講してください。

Students will attend lectures and read basic literatures on science, technology and society (STS). Depending on number of students, professor will lecture of STS in the first a few classes. Students will spend remaining time reading basic literatures (professor will decide literature reading list with students during orientation). Although the course deals with science and technology, students can attend even without prior knowledge in natural science and engineering.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 科学技術社会論とは何か(1)
3. 科学技術社会論とは何か(2)
4. 科学技術社会論とは何か(3)
5. 科学技術社会論とは何か(4)
6. 科学技術社会論とは何か(5)
7. 文献講読(1)
8. 文献講読(2)
9. 文献講読(3)
10. 文献講読(4)
11. 文献講読(5)
12. 文献講読(6)
13. 文献講読(7)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

その回で扱う文献について事前に熟読し、論点をまとめておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

討議への貢献度(50%)/割り当てられた文献に関する報告(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB071／調査計画法 (Research Design)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	量的調査と質的調査による混合アプローチの可能性		
担当者名 (Instructor)	大崎 裕子(OSAKI HIROKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会調査を実施する際の基本的な事項を理解し、実査に活用できるようにする。

The purpose of this class is to provide students with an understanding of the basics of social research so that they can apply them in actual research.

授業の内容 (Course Contents)

社会調査の基本的な考え方及び各種調査手法の特徴を学んだうえで、リサーチクエスションの立て方や仮説の構築、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析、調査結果の報告に至る方法を取得する。あわせて調査倫理についても学ぶ。既存の理論や先行研究を考慮した上で適切な調査を企画・実施できるようになることを目標とする。さらに、量的調査と質的調査を統合した研究計画について学ぶ。

After learning the basic concepts of social research and the characteristics of various research methods, students will acquire methods for setting research questions, constructing hypotheses, planning and designing surveys, collecting, organizing, and analyzing data, and reporting survey results. Students will also learn about research ethics. The goal is for students to be able to plan and conduct appropriate surveys, taking into account existing theories and previous research. In addition, students will learn how to design a research plan that integrates quantitative and qualitative research.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 社会調査の種類
3. 社会学における理論と検証
4. 社会調査の倫理と今日的課題
5. 量的調査と質的調査の混合アプローチ
6. 調査計画(1): 問題関心と先行研究レビュー
7. 調査計画(2): リサーチクエスションと仮説構築
8. 調査票調査(1): 調査票の設計とワーディング
9. 調査票調査(2): 調査対象とサンプリング
10. 調査票調査(3): データの収集とコーディング・クリーニング
11. 調査票調査(4): データ分析と結果の解釈
12. ヒアリング調査(1): 調査項目の整理、対象者の選定と関係形成
13. ヒアリング調査(2): データ収集と分析結果の整理
14. まとめ: 調査票調査とヒアリング調査の統合的検討

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・ 量的・質的調査を問わず、自身の研究関心に関連する先行研究を多数読んでおくこと。
- ・ 授業全体をととして、自身の研究計画にかんする実習課題が出される。授業時間内で完結しない分は、授業時間外に作業を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 授業内提出物(40%) / 講義への参加度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 轟亮・杉野勇・平沢和司編、2021、『入門・社会調査法[第4版]: 2ステップで基礎から学ぶ』、法律文化社 (ISBN:978-4589041418)

参考文献 (Readings)

1. 森岡清志編、2007、『ガイドブック社会調査第2版』、日本評論社 (ISBN:978-4535582460)

2. 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 上』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520263)
3. 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 下』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520270)
4. 松本渉、2021、『社会調査の方法論』、丸善出版 (ISBN:978-4621306314)
5. 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』、有斐閣 (ISBN:978-4641183056)

参考文献は授業時に提示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

学部レベルの社会調査法や社会統計学の知識(クロス集計や平均値の比較、分析結果のグラフ作成など)がある事を前提とする。それらについては、各自が自主的に習得しておくこと。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB073／量的分析法 (Statistical Analysis)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学で主流の量的分析手法の基本を掌握		
担当者名 (Instructor)	二階堂 晃祐(NIKAIDO KOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会統計学や多変量解析の基礎を学んでいる事を前提としつつ、社会科学において本格的な量的研究に基づく学術論文を理解／執筆出来るレベルに相当する統計分析技能を身に付ける事を目的とする。

This course aims to cultivate mastery on the part of the students of a series of quantitative methods of data analysis that are typically used in sociology, generally at the level of understanding that would be needed to comprehend, and hopefully write, research papers in sociology centered on the use of such quantitative methods. Prior knowledge of basic statistical concepts having to do with inference, hypothesis testing, and so on, would be assumed.

授業の内容(Course Contents)

授業の直接的な対象は統計学的な手法やその数学的背景だが、運営面での力点は人間の営みを理解する学問としての社会学における応用である。つまり、数値データをもとにして「社会的な想像力」を働かせる能力を向上させられるよう、意識してもらいたい。授業の具体的な内容としては、社会的な観点からのデータの扱い方や解釈、実際にソフトウェア「SPSS」を使用した実習が中心。講義と実習を組み合わせ、信頼性の高い社会調査のデータを実際に使用して各分析手法を体験してもらうのが授業の主要要素となる。

Students should in general be aware that the greatest focus in this class would be application, rather than pure theory or concepts, of the series of quantitative methods covered. That is, given that this is a course in sociology, while a firm grasp of the conceptual and mathematical elements behind the statistical methods are most certainly helpful, an even more important aspect for the purpose of this course is the ability to exercise “sociological imagination”, so to say, from data that are just, at the face value, a very large chunk of numbers. With this in mind, the substance of the course would be devoted to practice of analyzing real-life, larger-scale data sets in sociology, such as the GSS dataset. The software “SPSS” will be used throughout the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス: 授業の概要と考え方
2. 統計学の基礎復習: 推定や検定など、統計学の基本的な考え方について復習、使用予定ソフト「SPSS」の操作法の基礎復習
3. 分析への基本的な考え方・思想の確認: 単なる数値の処理や純粋に数学的な課題にとらわれず、社会的な意味づけをデータに持たせるために必要な事項の考察、また SPSS 操作法の復習継続
4. 重回帰分析(1): 係数と有意性の解釈とその意味合いの違い、他変数の制御の考え方、ダミー変数の使用、決定係数の意味合い
5. 重回帰分析(2): 交互作用効果の様々な使用法
6. 重回帰分析(3): 回帰診断、独立変数の選択の仕方(モデル構築の手法)
7. ロジスティック回帰分析(1): 質的変数を従属変数とするために、オッズ比を使用した結果の解釈の仕方とその社会的な意味合い
8. ロジスティック回帰分析(2): 質的変数を独立変数として使用する時の注意点、多重ロジスティック回帰分析と変数選択の方法
9. ロジスティック回帰分析(3): さらなる発展と応用のために～順序ロジスティック回帰や多項ロジスティック回帰の考え方と適切な使用法、それぞれの役割分担
10. ログリニア分析(1) 質的変数同士の相関の分析について、基本的な解釈の仕方とモデルの適応度の判断の仕方
11. ログリニア分析(2): より複雑なモデルの解釈の仕方、クロス表の観察／分析とログリニア分析の関係
12. 更なる質的変数の分析について: ロジスティック回帰分析、クロス集計表の分析、ログリニア分析の使い分けと役割分担、ログリニア分析における変数の相関の強さの探索
13. コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析と数量化理論: 質的データの視覚化、有意性検定を伴わない分析手法の考え方と使用法について
14. 因子分析とクラスター分析: 多くの変数の情報をまとめ簡素化を目指す考え方、社会学における応用の可能性

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

原則、2回のレポートを予定しており、一週間程度の期間での作業となる。復習、予習がどの位必要かは社会統計学の事前知識がどの程度あるかにも左右されるが、一般論としてはある程度の時間をみておいてほしい。また、授業で必要となる社会調査等のデータはいくつか講師側で用意するが、既に自身で分析してみたいデータがあればそれを持ち込んでもらってもよい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(40%)/出席点、コメントカード、授業参加(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 三輪哲・林雄亮、2014、『SPSS による応用多変量解析』、オーム社 (ISBN:978-4-274-05011-4)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB075／質的分析法 (Qualitative Research)		
担当者名 (Instructor)	小林 多寿子(KOBAYASHI TAZUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

質的調査研究の系譜をたどり、社会学における質的調査を概観的に把握したうえで、質的調査の方法や分析について具体的な事例をととして学び、質的調査研究の基礎力と実践力を身につけることをめざす。

Students will trace qualitative researches to understand overall qualitative sociology. To acquire basic and practical qualitative research skills, students will learn its methods and analyses through specific case studies.

授業の内容 (Course Contents)

社会調査法における質的研究に焦点を合わせ、質的研究の系譜をたどり、近年の質的研究成果を概観しながら、質的研究の事例をととして多様な質的方法の実践について学ぶ。フィールドワークから質的データの収集、分析、解釈、論文の作成に至るまでの社会調査の全過程を、さまざまな文献をもとに検討・討議する。昨今は、社会調査において調査倫理が不可欠となっているので、調査協力者と調査者の関係や当事者研究などの可能性についても検討する。ライフストーリー調査の方法論を基礎に、フィールドワークの方法、インタビュー法、ナラティブ論、エスノグラフィの書き方などが検討、考察の焦点となる。

Students will focus on society sociological research, trace qualitative researches, and study recent qualitative research findings. They will learn various qualitative methods through these cases. Based on various literatures, students will discuss social research processes, including collecting, analyzing, interpreting, and writing papers on field works' qualitative data. Recently research ethic has become essential in social research, so students will also discuss possibilities of researching party involved and relationships between researcher and research collaborators. Based on life story research methods, students will focus on discussing and analyzing various methods, including field work, interview, narrative theory, and ethnography writing.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション: 授業の進め方
2. 質的データとは何か: 個人記録、文書資料、新聞雑誌記事、音声、映像など
3. 質的調査の系譜: 社会学における質的調査への道
4. 質的調査法の種類: ドキュメント分析、ライフヒストリー/ライフストーリー法、参与観察など
5. 質的調査の技法: フィールドワークの方法
6. 質的調査の技法: 多様なインタビュー法—相互行為としてのインタビュー
7. 質的調査の技法: 「人生」へのアプローチ—ライフヒストリー/ライフストーリーの考え方
8. 質的調査の技法: アーカイヴ調査とアーカイヴ資料の可能性
9. 質的データの分析・解釈: フィールドノートとトランスクリプト
10. 質的データの分析・解釈: 語りの社会的・文化的文脈
11. 質的データの分析・解釈: 「分厚い記述」と生活世界へのまなざし
12. 調査実践と調査倫理の諸問題
13. 受講生による調査計画と調査方法: リサーチデザインと成果の呈示
14. 全体のふりかえりと質的調査の課題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

基礎的な関連文献を読むこと、各自の研究テーマを深めること

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業への参加度(30%)/授業内報告(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 小林多寿子編、2010、『ライフストーリー・ガイドブック』、嵯峨野書院 (ISBN:978-4-7823-0509-6)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB081／プロジェクト研究A1 (Research Project A1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際的な人の移動と交流 (Global Migration and Transnational Relations)		
担当者名 (Instructor)	太田 麻希子(OTA MAKIKO) 中山 由佳(NAKAYAMA YUKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

This project, entitled “Global Migration and Transnational Networks,” is focused upon Japan– Philippines, Japan–Bangladesh relations, and supported from the “Asian People’s Friendship Society”, the so-called APFS (non-profit organizations). This is a pioneering type of graduate program integrating research by professional sociologists and graduate students’ training in sociology. We will examine the international migration trends relating to Japanese society, and characteristics of contemporary ethnic communities. Additionally, we also undertake some research into the impact on the host society as well as on the migrants’ country of origin. Thus the research covers the network formation, that is the case of returning to homeland after staying foreign lands for a certain period of time. Our stance is from empirical research, gathering data from actual society. Students are expected to improve their skills in survey planning and quantitative and qualitative data analyses for completing research reports.

授業の内容 (Course Contents)

本プロジェクト授業は、日本の大都市で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。とくに国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国（フィリピンやバングラデシュなど）の変化、日本と海外の都市をつなぐような活動をしている組織等、例えば外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査や国内でのフィールドワークを実施する。条件が整えば、海外フィールドワークも計画する。日本における多様なタイプの定住形態の類型化や、日本からの帰還者がいかに日本とかかわるか等、実証データの収集を試みる。

Contemporary metropolises have become embedded with various types of migrants, and current debate of “transnational migrants” emphasizes that migrants live in the interconnections with more than one nation state, or continuously keep their links with homelands, while living in the foreign host community. Our focus of the research is Japan–Philippines, Japan–Bangladesh relations, gathering data by conducting intensive interviews with migrants as well as returnees from Japan. Each student studies Sociological theories and methods from the topic of global migration and resultant settlement patterns.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読 I: 対象となる地域やエスニック社会にかんする文献を講読
3. 文献講読 II
4. 文献講読 III
5. 文献講読 IV: インタビュー等の方法論を学ぶ
6. 文献講読 V
7. 中間発表 I
8. 中間発表 II
9. 調査企画 I: 先行研究のまとめとそれぞれの調査計画を設定する
10. 調査企画 II
11. 調査企画 III
12. 調査企画 IV
13. 中間報告 I
14. 中間報告 II

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業時間内の討論への貢献度(30%)/最終レポート(Final Report)(35%)/授業での報告(35%)

テキスト (Textbooks)

1. 吉成勝男・水上徹男・野呂芳明、2015、『市民が提案するこれからの移民政策—NPO 法人 APFS の活動と世界の動向から』、現代人文社
 2. 吉成勝男・水上徹男、2018、『移民政策と多文化コミュニティへの道のり—APFS の外国人住民支援活動の軌跡—』、現代人文社
 3. International Organization for Migration (IOM). 2013. *Country Migration Report: The Philippines*. IOM
 4. International Organization for Migration (IOM). 2014. *The International Organization for Migration in Brife*. IOM
 5. OECD. 2018. *International Migration Outlook 2020*. OECD
- 適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

参考文献 (Readings)

1. Smillie, Ian. 2009. *Freedom from Want*. Kumarian Press
 2. Vertovec, Steven. 2009. *Transnationalism (Key Ideas)*. Routledge
 3. Vinken, Henk, et al. (eds.). 2010. *Civic Engagement in Contemporary Japan*. Springer
- 適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB082／プロジェクト研究A2 (Research Project A2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際的な人の移動と交流 (Global Migration and Transnational Relations)		
担当者名 (Instructor)	太田 麻希子(OTA MAKIKO) 水上 徹男(MIZUKAMI TETSUO) 野呂 芳明(NORO YOSHIKI) 中山 由佳(NAKAYAMA YUKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

This project, entitled “Global Migration and Transnational Networks,” is focused upon Japan–Philippines, Japan– Bangladesh relations, and supported from the “Asian People’s Friendship Society”, the so-called APFS (non-profit organizations). This is a pioneering type of graduate program integrating research by professional sociologists and graduate students’ training in sociology. We will examine the international migration trends relating to Japanese society, and characteristics of contemporary ethnic communities. Additionally, we also undertake some research into the impact on the host society as well as on the migrants’ country of origin. Thus the research covers the network formation, that is the case of returning to homeland after staying foreign lands for a certain period of time. Our stance is from empirical research, gathering data from actual society. Students are expected to improve their skills in survey planning and quantitative and qualitative data analyses for completing research reports.

授業の内容 (Course Contents)

本プロジェクト授業は、日本の大都市で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。とくに国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国（フィリピンやバングラデシュなど）の変化、日本と海外の都市をつなぐような活動をしている組織等、例えば外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査や国内でのフィールドワークを実施する。条件が整えば、海外フィールドワークも計画する。日本における多様なタイプの定住形態の類型化や、日本からの帰還者がいかに日本とかかわるか等、実証データの収集を行う。

Contemporary metropolises have become embedded with various types of migrants, and current debate of “transnational migrants” emphasizes that migrants live in the interconnections with more than one nation state, or continuously keep their links with homelands, while living in the foreign host community. Our focus of the research is Japan–Philippines, Japan– Bangladesh relations, gathering data by conducting intensive interviews with migrants as well as returnees from Japan. Each student studies Sociological theories and methods from the topic of global migration and resultant settlement patterns.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス： 秋学期の進め方およびフィールドワークのスケジュールなど
2. インタビューおよび質問票調査の検討I
3. インタビューおよび質問票調査の検討II
4. 実地調査(国内)I: フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
5. 実地調査(国内)II
6. 実地調査(海外)I: フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
7. 実地調査(海外)II
8. データ検証I
9. データ検証II
10. データ検証III
11. 中間報告 I
12. 中間報告 II
13. 報告書作成I
14. 報告書作成II

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

研究報告や調査活動(65%)/最終レポート(Final Report)(35%)

テキスト (Textbooks)

プロジェクト研究A1参照。
適宜指示する。

参考文献 (Readings)

プロジェクト研究A1 参照。
適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

プロジェクト研究A1を履修していること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB083／プロジェクト研究B1 (Research Project B1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「デジタル社会学」のリサーチデザイン		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA) 川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO) 榊 剛史(SAKAKI TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

With the deep penetration of social media into daily life and the expansive generation of big data with the information network absorbing our contemporary society at large, the field called "digital sociology" is emerging. This project research seminar requires students to explore the way we could design research strategies with a wide variety of analytical methods as "digital sociology," in a situation where the data available for social research are diversifying both in quantitative data and qualitative one.

授業の内容 (Course Contents)

ソーシャルメディア・ログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。理論的な側面と分析例と方法論の学習を中心とする。

Students will learn how to analyze large-scale, feature-rich data dealing with actual social media log data. The spring semester mainly focuses on theoretical aspects of digital sociology and fosters your acquisition of foundational methods and strategies of big data analysis using actual log data set.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読(1) デジタル社会学について
3. 文献講読(2) ハイブリッド・メソッドについて
4. 文献講読(3) ビッグデータ、ビジネスインテリジェンスについて
5. ビッグデータ解析方法論(1) ソーシャルメディア・ビッグデータ
6. ビッグデータ解析方法論(2) Python などのプログラミング言語
7. ビッグデータ解析方法論(3) テキスト・データの分析
8. ビッグデータ解析実践(1)
9. ビッグデータ解析実践(2)
10. ビッグデータ解析実践(3)
11. 分析報告とディスカッション(1)
12. 分析報告とディスカッション(2)
13. 分析報告とディスカッション(3)
14. 春学期総括と秋学期作業に向けての検討

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析をはじめ、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとりいれる。履修者には、社会調査の方法論、主として、プログラミング言語 Python のコーディングを含むデータ分析法(自然言語処理)について深く学習するとともに、リサーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業期間内の作業(30%) / プレゼンテーション(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 木村忠正、2018、『ハイブリッド・エスノグラフィー』、新曜社 (ISBN:4788515830)

2. 鳥海不二夫編著、2021、『計算社会科学入門』、丸善出版 (ISBN:4621305964)
 3. 榊剛史編著、2022、『Python ではじめるテキストアナリティクス入門 』、講談社 (ISBN:4065274109)
- 授業内で指示する。

参考文献 (Readings)

1. Deborah Lupton. 2014. *Digital Sociology*. Routledge (ISBN:1138022772)
 2. Jessie Daniels et al. 2016. *Digital Sociologies*. Policy Press (ISBN:978-1447329015)
- そのほかは授業内で指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB084／プロジェクト研究B2 (Research Project B2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「デジタル社会学」のリサーチデザイン		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA) 川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO) 榊 剛史(SAKAKI TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

With the deep penetration of social media into daily life and the expansive generation of big data with the information network absorbing our contemporary society at large, the field called "digital sociology" is emerging. This project research seminar requires students to explore the way we could design research strategies with a wide variety of analytical methods as "digital sociology," in a situation where the data available for social research are diversifying both in quantitative data and qualitative one.

授業の内容 (Course Contents)

ソーシャルメディアログデータ、スマホログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。秋学期はリサーチデザインについて文献により学習した上で、具体的な調査研究課題を設定し、ソーシャルメディアログデータを取得し、分析、レポートにまとめるという、一連の調査プロセスに根ざした実習を行う。

Students will learn how to analyze large-scale and feature-rich data dealing with actual large social media log data and/or smartphone log data. In the fall semester, while you learn methodology of analysis of big data and the way to develop research design, students are required to formulate research questions, surveying literature, conducting research with adjusting your research strategies, collecting data, developing analysis, drawing conclusions and summarizing the results so as to finish writing up an essay.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読(1)リサーチデザインについて
3. 文献講読(2)データ収集・分析アプローチの選択
4. 文献講読(3)データ・マネジメント、調査倫理について
5. リサーチ・デザイン(1)問題設定・仮説構成
6. リサーチ・デザイン(2)データ収集・分析アプローチ
7. リサーチ・デザイン(3)計画報告とディスカッション
8. データ解析実践(1)
9. データ解析実践(2)
10. データ解析実践(3)
11. 分析報告とディスカッション(1)
12. 分析報告とディスカッション(2)
13. 分析報告とディスカッション(3)
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析をはじめ、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとりいれる。履修者には、社会調査の方法論、ソフトウェアの操作を含むデータ分析法について深く学習するとともに、リサーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業期間内の作業(30%) / プレゼンテーション(30%)

テキスト(Textbooks)

授業内で指示する。

参考文献(Readings)

1. 木村忠正、2018、『ハイブリッド・エスノグラフィー』、新曜社 (ISBN:4788515830)
 2. 鳥海不二夫他、2021、『計算社会科学入門』、丸善出版 (ISBN:4621305964)
 3. 北川源四郎他、2021、『教養としてのデータサイエンス』、講談社 (ISBN:4065238099)
- そのほかは授業内で指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB085／プロジェクト研究C1 (Research Project C1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化の社会学:消費社会における物質文化と身体技術		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI) 是永 論(KORENAGA RON)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

都市東京において消費社会化がいかに進んでいるのかについて具体的にあきらかにするとともに、各自がそれをできるように、分析手法を身につける。

The aim of the course is to elucidate precisely the advancement of consumerization in urban Tokyo, and to devise analytical techniques so that each student can attain this independently.

授業の内容 (Course Contents)

都市東京において消費社会化がいかに進んでいるのかについて、前半は文献を読むとともに、後半は量的または質的調査を行う。

This class will explore the burgeoning of consumerism in the metropolises of Tokyo. The initial segment of the lesson will be devoted to examining the scholarly literature, while the subsequent segment of the session will be dedicated to performing either quantitative or qualitative research.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 消費社会論・物質文化に関する文献の分析1
3. 消費社会論・物質文化に関する文献の分析2
4. 消費社会論・物質文化に関する文献の分析3
5. 消費社会論・物質文化に関する文献の分析4
6. 消費社会論・物質文化に関する文献の分析5
7. 消費社会論・物質文化に関する調査法の分析1
8. 消費社会論・物質文化に関する調査法の分析2
9. 消費社会論・物質文化に関する調査法の分析3
10. 各自の調査・発表1
11. 各自の調査・発表2
12. 各自の調査・発表3
13. 各自の調査・発表4
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

履修者には、文献の購読と、各自の調査・分析を義務付ける。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

提出物の評価(40%)／ゼミにおける発表及び活動状況の評価(60%)

テキスト (Textbooks)

1. 貞包英之、2022、『サブカルチャーを消費する』、玉川大学出版局
 2. 貞包英之、2023、『消費社会を問いなおす』、筑摩書房
 3. ジョルダン・サンド、2022、『東京ヴァナキュラー』、新曜社
- 英語圏の文献を中心に、授業にて適宜指示する(論文・書籍の一部をオンラインで共有の予定)。

参考文献 (Readings)

1. ジャン・ボードリヤール、2015、『消費社会の神話と構造』、紀伊國屋書店
 2. ダニエル・ミラー、2022、『消費は何を変えるのか』、法政大学出版局
- 授業にて指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB086／プロジェクト研究C2 (Research Project C2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化の社会学:消費社会における物質文化と身体技術		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI) 是永 論(KORENAGA RON) 酒井 信一郎(SAKAI SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

趣味活動の中で行われる身体的なコミュニケーションの技術を、消費社会における物質文化を交えて分析する。

We will study embodied communication and modalities employed in leisure pursuits by addressing material culture in consumer society.

授業の内容 (Course Contents)

趣味的な文化活動についての質的研究を目的に、フィールドワークを中心とした既存の社会学における趣味活動へのアプローチを概観するとともに、エスノグラフィーの実践から考える。特に当事者の活動に志向した研究の方法について検討するために、実際に趣味活動を行っている人々を対象としたフィールドワークを履修者全員が行う。フィールドで得られたデータをもとに分析を行い、エスノグラフィーを作成する。各自で持ち寄ったデータを履修者全員で検討するデータセッションの機会も設ける。

We will conduct a review of existing approaches to hobbyist activities in sociology, with a particular emphasis on fieldwork, and will consider these approaches from the practice of ethnography in order to conduct qualitative research on the cultural activities of hobbyists. Each student will conduct fieldwork with individuals who are socially immersed in leisure pursuits in order to investigate research methods that are targeted toward the practical actions and practical reasonings of the individuals concerned. This will be done in order to fulfill the course requirements. Following data gathering in the field, a thorough analysis will be performed, and an ethnography will be prepared. In addition, there will be an opportunity for a data session.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 趣味の社会学・概論1
3. 趣味の社会学・概論2
4. エスノメソドロジーとワークの研究
5. 趣味活動のフィールドワーク1
6. 趣味活動のフィールドワーク2
7. 趣味活動のフィールドワーク3
8. データセッション1
9. データセッション2
10. データセッション3
11. 分析報告1
12. 分析報告2
13. 分析報告3
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

履修者には、課外時間にフィールドに赴いてデータを取ることを義務付ける。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

提出物の評価(40%)/ゼミにおける発表及び活動状況の評価(60%)

テキスト (Textbooks)

1. 秋谷直矩ほか編、2021、『楽しみの技法・趣味実践の社会学』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4-7795-1582-8)
授業にて適宜指示する(論文・書籍の一部をオンラインで共有の予定)。

参考文献 (Readings)

1. 是永論・富田晃夫編、2021、『家庭における活動と学び: エスノメソドロジー住まいの中の小さな社会秩序』、明石書店

(ISBN:978-4-7503-5263-3)

2. 栗谷佳司・太田健二、2019、『表現文化の社会学入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-08661-0)

3. 宮入恭平・杉山昂平編、2021、『「趣味に生きる」の文化論:シリアスレジャーから考える』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779514616)

フィールドワークの文献は多様にわたるため、授業内で紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

研究室 HP <http://www.rikkyo.ne.jp/web/ronkore/>

授業参加者間の連絡には大学のアカウントで登録する Google Chat を用いる予定。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB087／プロジェクト研究D1 (Research Project D1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	東アジアのメディア・ジャーナリズム研究		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG) 林 怡夔(LIN I-HSUAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

東アジア地域におけるメディア・システムおよびジャーナリズム文化について、グローバル比較の視点から理解する。調査研究を遂行するためのリサーチスキル、文献調査、メディア産業やジャーナリズム文化に関わるデータ分析、アンケート、フィールドワーク、聞き取り調査などの研究手法を学ぶ。

This course aims to understand East Asia's media system and journalism culture from a global comparative perspective. Students will learn research skills, literature review, data analysis related to the media industry and journalism culture, questionnaires, fieldwork, interviews, and other research methods to carry out the research project.

授業の内容 (Course Contents)

東アジアにおけるメディアのシステムおよびジャーナリズム文化の比較を主題とする。比較対象地域は、台湾、韓国、日本、そして香港、シンガポールなどを視野に入れて、受講生の構成や希望などを考慮して定める。

調査方法としては、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査、フィールドワーク、聞き取り調査などを用いる。文献輪読を通して理論的な分析視点を学び、先行研究のレビューを行いつつ、各受講生は、自ら研究調査計画の設計、データ収集に取り組む。春学期中は、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査を中心に、夏から秋学期中にかけて適切な時期にフィールド調査を行う。

This course will focus on comparing media systems and journalism cultures in East Asia. The target regions for comparison will be Taiwan, South Korea, Japan, Hong Kong, and Singapore, considering the students' research interests.

Research methods will include media system analysis, qualitative media analysis, questionnaire surveys, fieldwork, and interviews. Students will learn theoretical analysis perspectives through reading literature and reviewing previous research, while each student will design their research plan and collect data. We will focus on media system analysis, qualitative media analysis, and questionnaire surveys in the spring semester. We will conduct field surveys in the target areas in the fall semester.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献輪読
3. 文献輪読
4. 文献輪読
5. 各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
6. 各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
7. 各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
8. データ収集・分析の実践
9. データ収集・分析の実践
10. データ収集・分析の実践
11. 分析報告とディスカッション
12. 分析報告とディスカッション
13. 分析報告とディスカッション
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業計画は、調査計画及び実施の過程で、予定などが前後することがある。

講読以外に、調査・発表における作業上のやりとりで英語を使用する機会があるので、アカデミック・ライティングなども含めて学習しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業での発表及び討論(30%) / 研究プレゼンテーション(30%)

テキスト(Textbooks)

授業内で提示する。

参考文献(Readings)

1. NHK 放送文化研究所、2021、『NHK データブック 世界の放送 2021』、NHK 出版
 2. Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini. 2000. Comparing Media Systems: Three Models of Media and Politics. Cambridge University Press (ISBN:0521543088)
 3. Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini. 2012. Comparing Media Systems Beyond the Western World. Cambridge University Press (ISBN:1107699541)
 4. Hanitzsch, Thomas, Folker Hanusch, Jyotika Ramaprasad. 2019. Worlds of Journalism: Journalistic Cultures Around the Globe. Columbia Univ Pr (ISBN:0231186428)
 5. 林怡蓁、2014、『台湾のエスニシティとメディアー統合の受容と拒絶のポリティクス』、立教大学出版会 (ISBN:4901988255)
 6. Carlson, Matt and Seth C. Lewis. 2015. Boundaries of Journalism: Professionalism, Practices and Participation. Routledge (ISBN:1138017841)
- 授業内で提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB088／プロジェクト研究D2 (Research Project D2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	東アジアのメディア・ジャーナリズム研究		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG) 林 怡夔(LIN I-HSUAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

東アジア地域におけるメディア・システムおよびジャーナリズム文化について、グローバル比較の視点から理解する。調査研究を遂行するためのリサーチスキル、文献調査、メディア産業やジャーナリズム文化に関わるデータ分析、アンケート、フィールドワーク、聞き取り調査などの研究手法を学ぶ。

This course aims to understand East Asia's media system and journalism culture from a global comparative perspective. Students will learn research skills, literature review, data analysis related to the media industry and journalism culture, questionnaires, fieldwork, interviews, and other research methods to carry out the research project.

授業の内容 (Course Contents)

東アジアにおけるメディアのシステムおよびジャーナリズム文化の比較を主題とする。比較対象地域は、台湾、韓国、日本、そして香港、シンガポールなどを視野に入れて、受講生の構成や希望などを考慮して定める。

調査方法としては、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査、フィールドワーク、聞き取り調査などを用いる。文献輪読を通して理論的な分析視点を学び、先行研究のレビューを行い、各受講生は、自ら研究調査計画の設計、データ収集に取り組む。春学期中は、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査を中心に、夏から秋学期中にかけて適切な時期にフィールド調査を行う。

This course will focus on comparing media systems and journalism cultures in East Asia. The target regions for comparison will be Taiwan, South Korea, Japan, Hong Kong, and Singapore, considering the students' research interests.

Research methods will include media system analysis, qualitative media analysis, questionnaire surveys, fieldwork, and interviews. Students will learn theoretical analysis perspectives through reading literature and reviewing previous research, while each student will design their research plan and collect data. We will focus on media system analysis, qualitative media analysis, and questionnaire surveys in the spring semester. We will conduct field surveys in the target areas in the fall semester.

授業計画 (Course Schedule)

1. フィールド調査計画の検討
2. フィールド調査計画の検討
3. 関連研究1・先行調査1
4. 関連研究2・先行調査2
5. 調査準備1
6. 調査準備2
7. 調査実施1
8. 調査実施2
9. 調査実施3
10. データ検証1
11. データ検証2
12. プレゼンテーション1
13. プレゼンテーション2
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業計画は、調査計画及び実施の過程で、予定などが前後することがある。

講読以外に、調査・発表における作業上のやりとりで英語を使用する機会があるので、アカデミック・ライティングなども含めて学習しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業での発表及び討論(30%) / 研究プレゼンテーション(30%)

テキスト(Textbooks)

授業内で提示する。

参考文献(Readings)

1. NHK 放送文化研究所、2021、『NHK データブック 世界の放送 2021』、NHK 出版
2. Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini. 2000. Comparing Media Systems: Three Models of Media and Politics. Cambridge University Press (ISBN:0521543088)
3. Hallin, Daniel C.and Paolo Mancini. 20. Comparing Media Systems Beyond the Western World. Cambridge University Press (ISBN:1107699541)
4. Hanitzsch, Thomas, Folker Hanusch, Jyotika Ramaprasad. 2019. Worlds of Journalism: Journalistic Cultures Around the Globe. Columbia Univ Pr (ISBN:0231186428)
5. Carlson, Matt and Seth C. Lewis. 2015. Boundaries of Journalism: Professionalism, Practices and Participation. Routledge (ISBN:1138017841)

授業内で提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB431／リサーチ英語演習A (Research English A)		
担当者名 (Instructor)	モライス, L. (MORAIS LILIANA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6021	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1. Acquire the basic tools for graduate research.
2. Write and present a research proposal in English.

授業の内容 (Course Contents)

This course is designed to help students acquire the necessary tools to undertake graduate-level research in English. Students will be guided through several steps to write and present a clear, logical, and structured research proposal.

授業計画 (Course Schedule)

1. Syllabus overview and Introductions
2. What is a research proposal?
3. Finding relevant papers and writing bibliographical references
4. Reading strategies, note taking, quotations, and plagiarism
5. Annotated bibliography versus Literature review
6. Research questions and methods
7. Structure of a research proposal I
8. Structure of a research proposal II
9. Structure of a research proposal III
10. Structure of a research proposal IV
11. Peer-review and Discussion I
12. Peer-review and Discussion II
13. Peer-review and Discussion III
14. Final Presentations and Proposal Submission

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to read chapters of the textbook, read papers relevant to their research topics, plan for in-class assignments and discussions, prepare an oral presentation, and write a research proposal.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and Participation(10%)/Homework and in-class assignments(25%)/Oral Presentation(15%)/Research Proposal(30%)/Peer-review and Discussion(20%)

テキスト (Textbooks)

1. Wang, Gabe T., Park, Keumjae. 2016. Student research and report writing :from topic selection to the complete paper. Wiley-Blackwell (ISBN:1118963903)

参考文献 (Readings)

1. Eco, Umberto. 2015. How to Write a Thesis. The MIT Press (ISBN:978-0-262-52713-2)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB432／リサーチ英語演習B (Research English B)		
担当者名 (Instructor)	モライス, L. (MORAIS LILIANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6021	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1. Read and discuss academic papers in English.
2. Consider different research methods and designs.
3. Discuss the progress of your research.
3. Write and present a report of your research.

授業の内容 (Course Contents)

Students will engage in reading and discussing academic papers focused on various topics, research methods, and designs, discuss the progress of their research, and write a research report in English.

授業計画 (Course Schedule)

1. Syllabus overview and Introductions
2. Reading and Discussion I
3. Reading and Discussion I
4. Reading and Discussion II
5. Reading and Discussion III
6. Reading and Discussion IV
7. Reading and Discussion V
8. Reading and Discussion VI
9. Reading and Discussion VII
10. Reading and Discussion VIII
11. Peer-review and discussion of research report I
12. Peer-review and discussion of research report II
13. Peer-review and discussion of research report III
14. Final presentations of research report

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to read papers on various research topics, methods, and designs, plan for in-class assignments and discussions, prepare an oral presentation, and write a research report.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and Participation(10%)/Homework and in-class assignments(25%)/Oral Presentation(15%)/Research Paper(30%)/Peer Review and Discussion(20%)

テキスト (Textbooks)

1. Wang, Gabe T., Park, Keumjae. 2016. Student research and report writing: from topic selection to the complete paper. Wiley-Blackwell (ISBN:1118963903)
- Additional readings will be discussed in class and made available online.

参考文献 (Readings)

1. Kottmann, Nora; Reiher, Cornelia. 2020. Studying Japan: Handbook of Research Designs, Fieldwork and Methods. Nomos (ISBN:978-3-8487-5085-6)
2. O'Reilly, Karen. 2005. Ethnographic Methods. Routledge (ISBN:0-401-32156-5)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB461／学術論文の技法 (Academic Writing)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本語学術論文の書き方―形式と作法		
担当者名 (Instructor)	岡田 陽介(OKADA YOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

日本語学術論文の形式や作法について学び、適切な形式・表現を用いて履修者自身で論文を執筆できるようになることを目指す。

Students will learn structures and methods of Japanese academic papers. Students will learn to write theses with appropriate forms and expressions.

授業の内容 (Course Contents)

日本語学術論文の形式や作法について学ぶ。各回では基本的な事項の解説の後、履修者自身が用意した文章や小論文を教材として履修者同士で添削を行う。履修者の相互添削を通して、日本語学術論文の形式や作法の理解を深め、履修者自身が適切な形式の学術論文の技法を身につける。

Students will learn structures and methods of Japanese academic papers. Each time, after professor explains basic matters, students edit their own passages or short essays with each other. Through this collaborated editing, students will deepen their understanding about structures and methods of Japanese academic papers. Students will acquire appropriate forms and academic paper techniques.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 授業の狙いと各回の説明・授業を行う上での注意事項の説明
2. 日本語学術論文の形式(1): 論文の構成(問いと仮説)
3. 日本語学術論文の形式(2): 論文の構成(問いと仮説)
4. 日本語学術論文の形式(3): 先行研究の整理の仕方 1
5. 日本語学術論文の形式(4): 先行研究の整理の仕方 2
6. 日本語学術論文の作法(1): 記述上の約束事／注
7. 日本語学術論文の作法(2): 引用・文献リスト
8. 日本語学術論文の作法(3): 図表の注意事項
9. 日本語学術論文の作法(4): 校正
10. 小論文の相互添削(1)
11. 小論文の相互添削(2)
12. 小論文の相互添削(3)
13. 小論文の相互添削(4)
14. 小論文の相互添削(5)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の主たる教材は授業時間外に各自が執筆した文章や小論文となる。従って、各回で指示する授業時間外の課題に取り組むことが必須となる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／各回課題の提出状況(30%)／授業への貢献度(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

日本社会学会『社会学評論 スタイルガイド』(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB702／現代社会理論演習 (Seminar: Contemporary Social Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代社会学理論を読む		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は現代社会学理論から社会をとらえる方法を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は「現代社会論」の思考枠組をとらえるために、「ジェンダー」や「権力」、「アイデンティティ」、「文化」の関連について学んでいきたい。発表は、文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 文献講読

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでいることを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表と討論(100%)

テキスト (Textbooks)

1. Nancy Fraser. 1989. Unruly Practices: Power, Discourse, and Gender in Contemporary Social Theory. Univ of Minnesota Press (ISBN:0816617783)

まず最初の1冊として、この「Unruly Practices: Power, Discourse, and Gender in Contemporary Social Theory」を読むことだけを決め、それ以降は、参考文献に書かれた書物などを含め、講読テキストを選んでいきたい。

参考文献 (Readings)

1. Rita Felski. 1995. The Gender of Modernity. Harvard University Press
2. Rahel Jaeggi. 2018. Critique of Forms of Life. Belknap Press
3. Nancy Fraser, Rahel Jaeggi. 2023. Capitalism: A Conversation in Critical Theory. Verso Books
4. Elizabeth Grosz. 2005. Time Travels: Feminism, Nature, Power. Duke University Press Books
5. Bonnie Honig. 2021. A Feminist Theory of Refusal. Harvard University Press
6. Andreas Reckwitz Hartmut Rosa. 2023. Late Modernity in Crisis. Polity

7. Linda Alcoff. 1993. Feminist Epistemologies. Routledge

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB703／計量社会学研究 (Quantitative Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学における計量分析の方法と応用例		
担当者名 (Instructor)	村瀬 洋一(MURASE YOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

流動化する社会構造や政策形成の問題について、最新の研究動向を把握し、計量手法を用いた実証的な社会科学研究の考え方を理解する。その上で、各自が分析結果をもとに実証研究を進める基礎的能力を身につける。

To understand the latest research trends on the issues of fluidizing social structure and policy formation. To understand the concept of empirical sociological research using statistical methods. Finally, students acquire basic skills to conduct empirical research based on analysis results.

授業の内容 (Course Contents)

まず、計量社会学の考え方と社会調査法について解説する。次に、社会意識や政策への志向、社会変動について先行研究を理解する。社会構造と政策形成研究における問題点について考える。次に、ネットワークや信頼研究について、最近の研究動向と分析に触れる。最後に、実際に国際調査のデータファイルを分析し、その結果をもとにした討論も行う。建設的な批判的精神を持ち、真実とは何か自分で判断できる能力を修得することが大切。また、分析結果をもとに、独自の成果を発表する能力を習得する。理論と実証の往復を実践する。

First, the concepts of statistical sociology and social research methods are explained. Next, we will understand previous research on social consciousness, policy orientation, and social change. We will think about problems in social structure and policy making research. Next we will learn about recent research trends in network and trust research. Finally, we will analyze the data file of international social surveys and discuss the results. It is important to have a constructive critical spirit and to acquire the ability to judge what the truth is by yourself. Also, students should acquire the ability to present their original research outcomes based on the analysis results. We will practice a reciprocation between theory and empirical research.

授業計画 (Course Schedule)

1. 社会からデータをとる方法について
2. 無作為抽出法
3. エラボレイション
4. コウディング
5. 尺度構成法
6. データ分析法について
7. ソーシャル・キャピタル研究1
8. ソーシャル・キャピタル研究2
9. ソーシャル・キャピタル研究3
10. 学術論文の発表1
11. 学術論文の発表2
12. 学術論文の発表3
13. 分析結果をもとに討論1
14. 分析結果をもとに討論2

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

『社会調査演習 第2版』の1章を事前に読んでおくこと。また、講義開始後に指定された部分の作業と問題をやってくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業内の課題(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 原純輔、海野道郎、2004、『社会調査演習 第2版』、東京大学出版会 (ISBN:4130520199)
2. 田辺俊介他、2019、『日本人は右傾化したのかーデータ分析で実像を読み解く』、勁草書房 (ISBN:4326351799)

参考文献 (Readings)

1. 蒲島郁夫・竹中佳彦、2012、『現代政治学叢書 8 イデオロギー』、東京大学出版会
2. Putnam, Robert D. =猪口孝訳、2013、『流動化する民主主義: 先進 8 カ国におけるソーシャル・キャピタル』、ミネルヴァ書房
3. 三輪哲・林雄亮他、2014、『SPSS による応用多変量解析』、オーム社
4. 盛山和夫、2011、『経済成長は不可能なのか—少子化と財政難を克服する条件』、中央公論新社
5. 数土直紀他、2018、『格差社会のなかの自己イメージ』、勁草書房
6. 辻竜平他、2014、『ソーシャル・キャピタルと格差社会—幸福の計量社会学』、東京大学出版会
7. 筒井淳也他編、2015、『計量社会学入門 —社会をデータでよむ』、世界思想社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

村瀬研究室ホームページ参照

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase/>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB710／ライフストーリー演習 (Seminar: Life Story Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ライフストーリー研究の基礎		
担当者名 (Instructor)	石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶことを目的とする。

The aims to help students learn about the basic ideas and perspectives of life story research.

授業の内容 (Course Contents)

他者のライフを理解するとはどういうことか。そもそも「ライフ」とは何か。関連文献を批判的に読み解き、ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶ。また、受講者自身の調査研究についても報告してもらう。

What it means to understand life of others? What is "life" in the first place? Students will critically read literatures related to life story research, and learn about the basic ideas and perspectives of life story research. Furthermore, students will report on their own field research.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. お互いを知り合う
3. お互いを知り合う
4. お互いを知り合う
5. 調査研究報告・文献報告
6. 調査研究報告・文献報告
7. 調査研究報告・文献報告
8. 調査研究報告・文献報告
9. 調査研究報告・文献報告
10. 調査研究報告・文献報告
11. 調査研究報告・文献報告
12. 調査研究報告・文献報告
13. 調査研究報告・文献報告
14. 調査研究報告・文献報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

議論への貢献(50%) / 報告内容の内容(50%)

テキスト (Textbooks)

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB712／エスノメソドロジー演習 (Seminar: Ethnomethodology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	エスノメソドロジーの基本的な考え方・分析の態度		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

エスノメソドロジーの基本的な考え方および分析の態度を習得することを目的とする。

The purpose of this class is to obtain a grasp of basic ideas and analytical skills of ethnomethodology.

授業の内容 (Course Contents)

社会学は、対象となる私たち社会成員の側が、何らかのこゝろ(=概念)を用いて、自らの経験や行為を理解しているという事実と向き合ってきた。実際に私たちは、日常生活から始まって病いの経験やケアの実践などにいたるまで、何らかの方法(論)を用いて自らの経験や行為を理解し、さまざまな社会生活を営んでいる。授業では、私たちが社会生活を営むさいに実際に用いている方法(論)を捉えようとするエスノメソドロジー研究の現在の潮流(ワークの研究や会話分析など)について検討する。また、参加者の関心に従って、具体的な事例の分析的検討を行う機会を設ける予定である。

We will explore contemporary directions of the ethnomethodological studies, including studies of work and conversation analysis. We will also conduct "data sessions" according to the participants' interests.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献の報告・事例の検討
3. 文献の報告・事例の検討
4. 文献の報告・事例の検討
5. 文献の報告・事例の検討
6. 文献の報告・事例の検討
7. 文献の報告・事例の検討
8. 文献の報告・事例の検討
9. 文献の報告・事例の検討
10. 文献の報告・事例の検討
11. 文献の報告・事例の検討
12. 文献の報告・事例の検討
13. 文献の報告・事例の検討
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加の積極性(50%)／報告・発表内容(50%)

テキスト (Textbooks)

授業時に指示する。

参考文献 (Readings)

授業時に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB714／家族社会学演習 (Seminar: Sociology of Family)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化社会における「公」と「私」の再編を考える。(Considering the restructuring of "Public" and "Private" in a globalized society.)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆(HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、親密圏および公共圏についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、グローバル化にともなう「公」と「私」の再編を捉えるための理論的枠組みの習得を目指す。

In this course, students will read and discuss domestic and international literature on the intimate spheres and public spheres, with the aim of acquiring a theoretical framework for understanding the reorganization of "public" and "private" in the context of globalization.

授業の内容 (Course Contents)

近年は、家族社会学のみならずさまざまな社会科学の領域において、「公」と「私」の再編をあつかう研究が活性化している。これらの試みは、グローバル化にともなう社会変動によって従来の「公」と「私」の区分が機能不全になるなかで、新たな枠組みからその現状を捉えなおそうとするものであるといえる。そのテーマは、家族、ジェンダー、福祉、ケア、労働など多岐にわたっている。本講義では、こうした「公」と「私」の再編に関する国内外の研究動向を学ぶ。研究動向に関する文献の講読だけでなく、受講者に各自の研究テーマへの応用を報告してもらう場合もある。

In recent years, research on the reorganization of "public" and "private" has flourished, not only in the field of family studies but also in various other fields within the social sciences. These attempts have sought to redefine the current situation from a new framework as the traditional distinction between "public" and "private" becomes more dysfunctional due to social changes brought about by globalization. The themes of these studies are diverse, including family, gender, welfare, care, and labor.

In this lecture, students will learn about domestic and international research trends related to the reorganization of "public" and "private". In addition to reading the literature on research trends, students may be asked to report on its application to their own research topics.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション・文献の選定と割り当て
2. 文献講読とディスカッション 1
3. 文献講読とディスカッション 2
4. 文献講読とディスカッション 3
5. 文献講読とディスカッション 4
6. 文献講読とディスカッション 5
7. 文献講読とディスカッション 6
8. 文献講読とディスカッション 7
9. 文献講読とディスカッション 8
10. 文献講読とディスカッション 9
11. 文献講読とディスカッション 10
12. 文献講読とディスカッション 11
13. 文献講読とディスカッション 12
14. 文献講読とディスカッション 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当回の報告(50%)/出席、議論の参加(50%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

1. Raelene Wilding. 2017. Families, Intimacy and Globalization. Red Globe Press (ISBN:978-1137338587)
講義中に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB716／宗教社会学演習 (Seminar: Sociology of Religion)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代社会論の探求(＊なお、大学院には「[基礎科目としての]宗教社会学」「宗教社会学演習[この科目]」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること)		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

狭義の宗教にとどまらず、現代の精神状況を幅広く社会的に考察する。カウンセリング、セラピー、趣味世界の話も取り扱う。

The course is not limited to religion in the narrow sense of the word, but also examines a wide range of contemporary spiritual situations from a sociological perspective. Topics include counseling, therapy, and the world of hobbies.

授業の内容(Course Contents)

学部レベルを超えた文献・論文を輪読することを通じて、多様な社会学の議論に触れる。受講者の個人発表もおこなう。映像資料を見て議論する回も設ける。

例年は、各学生の興味関心にも基づき、毎週1本の学術論文を取り上げている。

Students will be exposed to a variety of sociological debates through reading of literature and articles beyond the undergraduate level. Individual presentations will be given. There will be times when students will watch and discuss video materials.

In past years, one academic article is selected each week based on the interests of each student.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 研究報告1
3. 研究報告2
4. 研究報告3
5. 映像資料
6. 輪読発表1
7. 輪読発表2
8. 輪読発表3
9. 映像資料
10. 輪読発表4
11. 輪読発表5
12. 輪読発表6
13. 映像資料
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

発表の準備は充分におこなうこと。参考文献を中心に、先行研究を読み込んでゆくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表(50%)/発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物)(50%)

テキスト(Textbooks)

随時指示する。

参考文献(Readings)

随時指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従

うこと。

諸注意

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB720／産業・労働社会学演習 (Seminar: Sociology of Work and Employment)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	英語圏ジャーナルの労働研究理解		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

英語圏ジャーナルに掲載されている、新経済・ギグ経済における仕事、高インボルブメントワークシステム、多様な雇用形態、ワーク・ワーク・バランス、女性労働、新しい労働運動などに関する諸論文を読み、最新の議論を検討・理解する。

Students will review and understand the latest studies on topics such as works in the new (or gig) economy, high involvement work systems, flexible forms of employment, balance between work and life, women's work, and new labor movement which are discussed in English journals.

授業の内容 (Course Contents)

新経済・ギグ経済における仕事、高インボルブメントワークシステム、多様な雇用形態、ワーク・ワーク・バランス、女性労働、新しい労働運動に関する英語圏ジャーナルの諸論文を講読し、最新の議論や論点を検討する。以下のジャーナルから最近の論文を選定し、講読する。

American Journal of Sociology,
American Sociological Review,
British Journal of Industrial Relation,
Capital and Class,
Economic and Industrial Democracy,
Labor Studies Journal,
Work, Employment and Society など。

授業では、英語圏ジャーナルにおける最新の議論の理解のみならず、日本の経済・経営システム、労働・雇用状況に照らし合わせ、その議論の適用可能性や意味合いについても議論していきたい。

Students will review and understand the latest studies on topics such as works in the new (or gig) economy, high involvement work systems, flexible forms of employment, balance between work and life, women's work, and new labor movement which are discussed in English journals. Students will read the latest papers from the following journals.

American Journal of Sociology,
American Sociological Review,
British Journal of Industrial Relation,
Capital and Class,
Economic and Industrial Democracy,
Labor Studies Journal,
Work, Employment and Society, etc.

In this class, students are able to understand the latest arguments discussed in English-speaking countries and areas and also to consider implications of these arguments for Japanese economy, society, and workers.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: 講読諸論文の紹介
2. 論文講読及びディスカッション
3. 論文講読及びディスカッション
4. 論文講読及びディスカッション
5. 論文講読及びディスカッション
6. 論文講読及びディスカッション
7. 論文講読及びディスカッション
8. 論文講読及びディスカッション
9. 論文講読及びディスカッション
10. 論文講読及びディスカッション
11. 論文講読及びディスカッション
12. 受講生の研究発表及びディスカッション

13. 受講生の研究発表及びディスカッション
14. 講読諸論文に関する総括ディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)
--

毎回の授業で講読予定の英語論文を授業前までに読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内報告(50%)/研究発表(20%)/ディスカッションへの参加(30%)

テキスト (Textbooks)

初回の授業にて提示する。

参考文献 (Readings)

授業時に随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB726／地域社会学演習 (Seminar: Urban and Regional Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地域再生とまちづくり		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

創造都市論、コミュニティ再生、まちづくりや市民活動に関する最新の都市理論を検証しつつ、都市再生戦略について、欧米との比較を行いながら分析をする。

Students will study the latest city theories including creative city, community revitalization, city building, and citizen activity. Students will compare Japan with Europe and US when analyzing strategies to revitalize cities.

授業の内容 (Course Contents)

急速にグローバル化する現代社会において、世界都市論、創造都市論、縮小都市論など、都市の生き残り戦略を取り上げる。各国の政府や自治体がどのような都市政策をとっているのか、またそこに政府セクター、市場セクター、市民セクターなど、どのような主体が参加し問題解決を図っているのか、現状を分析する。さらに各自の研究課題と研究計画に基づき、オリジナルの研究報告を行い、討論をする。

Students will study survival strategies for cities in rapidly globalized modern society, including theories of global city, creative city, and shrinking city. What city policies do governments and local agencies adopt? Which organizations participate in government, market, and civilian sectors? How do they plan to solve these issues? Students will analyze current state of these topics. Based on their research subjects and plans, students will report and discuss their original researches.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読 (1)
3. 文献講読 (2)
4. 文献講読 (3)
5. 文献講読 (4)
6. 文献講読 (5)
7. 文献講読 (6)
8. 中間討論
9. 文献講読 (7)
10. 文献講読 (8)
11. 各自報告
12. 各自報告
13. 各自報告
14. 全体討論

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験 (Report Exam) (60%) / ゼミ報告、発言、積極的関与 (40%)

テキスト (Textbooks)

演習内で適宜指示。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB732／国際社会学演習 (Seminar: Sociology of Transnational Social Spaces)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「越境」を問い直す		
担当者名 (Instructor)	石井 香世子(ISHII KAYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、グローバリゼーションとマルチカルチャリズムに関連した代表的な理論（移民と多文化共生、観光とローカル文化、家族の多文化化、難民問題の背景など）にはどのようなものがあるかを知ることが目標としています。

Specifically, the course aims to achieve: Students will understand typical theories on globalization and multicultural coexistence (immigration, multicultural coexistence, tourism, local culture, the transition to multicultural family, the context of the refugee issue, etc.),

授業の内容 (Course Contents)

グローバリゼーションは時間と空間の圧縮を通じて、もともと多様だった地球上各地に暮らす人々を一挙に「隣人」に位置づけたかに見えます。しかしそれは同時に、新たな問題を我々に突きつけることになりました。そのグローバリゼーションの構造について、この授業では、境界域とエスニシティの側面から学んでいきます。

Globalization compresses time and space, connecting diverse people living across the globe and making them neighbours. However, we are facing new problems at the same time. In this class, students will learn about globalization structure from perspective of border and ethnicity.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読＋グループ・ディスカッション 1
3. 文献講読＋グループ・ディスカッション 2
4. 文献講読＋グループ・ディスカッション 3
5. 文献講読＋グループ・ディスカッション 4
6. 文献講読＋グループ・ディスカッション 5
7. 文献講読＋グループ・ディスカッション 6
8. 文献講読＋グループ・ディスカッション 7
9. 文献講読＋グループ・ディスカッション 8
10. 文献講読＋グループ・ディスカッション 9
11. 文献講読＋グループ・ディスカッション 10
12. 文献講読＋グループ・ディスカッション 11
13. 文献講読＋グループ・ディスカッション 12
14. 文献講読＋グループ・ディスカッション 13

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーション(40%) / 議論への参加(40%) / その他提出物等(20%)

テキスト (Textbooks)

適宜、授業の中で指示する。

参考文献 (Readings)

1. 清水睦美ほか 編、2021、『日本社会の移民第二世代：エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』、明石書店 (ISBN:978-4750352282)
2. 錦田愛子 編、2020、『政治主体としての移民／難民——人の移動が織り成す社会とシティズンシップ』、明石書店 (ISBN:978-

4750349978)

3. 安達智史、2020、『再帰的近代のアイデンティティ論—ポスト 9・11 時代におけるイギリスの移民第二世代ムスリム』、晃洋書房 (ISBN:978-4771033320)

その他、履修者の主題に合わせて適宜授業のなかで提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB733／環境社会学研究 (Research: Environmental Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地域の語りを聞き取る		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

福島原発事故や公害裁判について文献を調査・収集・読み解き、調査・ヒアリングを行いながら、現場重視の環境社会学の研究手法を学ぶ。

This course aims to apprise students about methods of environmental sociology research emphasizing local sites. Students will need to collect, examine, and critically analyze literature describing the Fukushima nuclear accident and subsequent pollution trials.

授業の内容 (Course Contents)

福島原発事故や公害裁判の事例研究を行い、加害・被害の構造と司法による社会的価値の再構築という文脈を交えながら、環境社会学における社会問題研究について学び、あわせてフィールドでの聞き取り調査を実施する。なお、Covid-19 の状況によって、内容を変更することがある。

Students will investigate the Fukushima nuclear disaster and the various pollution trials with reference to the structures of inflicting damage and being afflicted as well as the judicial reconstruction of social values. Additionally, students will conduct field interviews and surveys and understand the various social issues associated with research in environmental sociology.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読1
3. 文献講読2
4. 文献講読3
5. 文献講読4
6. 文献講読5
7. テーマを深める: 方法論的検討1
8. テーマを深める: 方法論的検討2
9. 調査1
10. 調査2
11. 調査3
12. 調査4
13. 理論とデータに基づく社会問題の理解1
14. 理論とデータに基づく社会問題の理解2

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献紹介とレジュメ作成

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／報告と議論(60%)
調査費用は自己負担になります。希望者のみ参加とします。

テキスト (Textbooks)

図書館データベースの資料を適宜、使用します。
その他、資料を配布します。

参考文献 (Readings)

1. 関礼子編、2018、『被災と避難の社会学』、東信堂

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB739／ジャーナリズムスタディーズ研究 (Journalism Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	欧米ジャーナリズム史		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

諸理念、文法、記事のスタイル(文体)など、近現代ジャーナリズムはその多くをイギリス、アメリカがつくり上げてきた。本授業はとりわけ、アメリカにおけるジャーナリズムの発展史を通じて、ジャーナリズムについて理解を深める。

Much of journalism, such as ideas, grammar and style, has been created in the United States and the United Kingdom. This course deepens the understanding of journalism through the historical development of journalism in the United States.

授業の内容 (Course Contents)

マイケル・エメリーらによる包括的なアメリカジャーナリズムの通史のテキストの輪読を行う。本テキストはジャーナリズムの変化、発展をアメリカ社会の変化、発展との関係から理解しようとしたもので、それ以前のアメリカジャーナリズム史とは一線を画すものである。

This course performs careful reading in turns of the comprehensive history of American journalism by Emery et al.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 植民地時代から独立革命へ
3. ペニープレスの革命
4. 南北戦争とメディア
5. 革新主義とプロフェッション
6. イエロージャーナリズム
7. 第一次世界大戦とメディア
8. 両大戦間期のメディア
9. 第二次世界大戦とメディア
10. 赤狩りと客観報道
11. 大衆社会のメディア
12. ヴェトナム戦争とニュージャーナリズム
13. アメリカジャーナリズムの光と影
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストを割り当てて、毎回、議論するので、担当以外の部分も必ず読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/出席、発表、議論など授業への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

1. エメリーら著、大井眞二ら訳、2016、『アメリカ報道史』、松柏社 (ISBN:978-4775402382)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB740／ジャーナリズムスタディーズ演習 (Seminar: Journalism Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ネット時代の米日欧ジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	橋本 晃(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディアが情報を盛り込む器であるとしたら、ジャーナリズムはその器の中身、すなわち社会の存続、発展に不可欠な情報・オピニオン発信活動そのものである。インターネット時代に情報の器は大きく変容しつつあるが、肝心の中身は何が不変で何が変わりつつあるのか。器＝メディアと中身＝ジャーナリズム、さらには社会の三者の相互影響関係に留意しつつ、メディア・ジャーナリズム・社会の現在・近未来をトータルに把握する。

Media are containers in which information is poured, whereas journalism produces information contents which are indispensable for development of our society. In the digital information era, containers of information are dramatically changing, but as for contents, what is changing and what is unchanging? This course examines the present and future of journalism and media.

授業の内容 (Course Contents)

インターネット、ソーシャルメディア全盛の時代だが、社会の存続・発展に不可欠の公共のことがらについての情報発信とオピニオン集約の活動は、アメリカではネット中心のメディアが一定のオルタナティブな役割を演じているが、日本では皆無に近い。技術と経済ばかりが先行して進みがちなデジタルメディア革命の中で、忘れられがちなパブリックコミュニケーションの現在、近未来について、アメリカと日本、欧州のジャーナリズムの過去、現在を比較しつつ、展望する。

In the heyday of the Internet and social media, in the United States, alternative online media play a significant role, whereas in Japan, we have no equivalent alternative media. Journalism provides public information and opinion which are indispensable for the existence and development of our society. But, in our country, no online media provide such public information. Only technology and economy tend to be emphasized in the digital information revolution in this country. This course focuses upon the present and near future of public communication, examining the past and present of journalism in the United States, Japan and Europe.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. メディア化時代のジャーナリズム
3. ジャーナリズム教育
4. 情報源
5. ゲートキーピング、スピン
6. プロフェッショナリズムと客観性
7. メディアとジェンダー
8. ニュースバリュー
9. メディアフレーム
10. オルタナティブジャーナリズム
11. グローバル化とジャーナリズム
12. 戦争と平和のジャーナリズム
13. ジャーナリズム研究
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

教科書の指定された章を必ず読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/議論など授業への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 大井真二、田村紀雄、鈴木雄雅、2018、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版』、世界思想社

(ISBN:9784790717157)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB750／文化人類学演習 (Seminar: Cultural Anthropology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済をめぐる人類学的文献を読む		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済人類学の基礎文献を講読することとおして、経済現象をめぐる人類学的研究の全体像を把握することを目標とする。

The goal of this course is to gain an overall picture of economic anthropology through reading basic literature,

授業の内容 (Course Contents)

経済現象をめぐる人類学的文献を講読する。具体的な講読文献については、第1回目の授業に受講生との議論のうえ決定する。授業の進め方は以下のとおり。各回ともに授業の前半で、発表担当者がレジュメを作成して、報告する。授業の後半で、参加者全員で、講読箇所について議論する。議論に参加しない人、とくに授業内容に関心がない人は受講しないこと。

Students will read basic literature of economic anthropology from classic works to recent one. The details will be decided in the first class with students.

授業計画 (Course Schedule)

1. 導入および授業の進め方についての議論
2. 経済人類学の基礎文献を読む(1)
3. 経済人類学の基礎文献を読む(2)
4. 経済人類学の基礎文献を読む(3)
5. 経済人類学の基礎文献を読む(4)
6. 経済人類学の基礎文献を読む(5)
7. 経済人類学の基礎文献を読む(6)
8. 経済人類学の基礎文献を読む(7)
9. 経済人類学の基礎文献を読む(8)
10. 経済人類学の基礎文献を読む(9)
11. 経済人類学の基礎文献を読む(10)
12. 経済人類学の基礎文献を読む(11)
13. 経済人類学の基礎文献を読む(12)
14. まとめ—経済人類学の系譜を概観する

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業は基本的にディスカッションが中心となる。担当者は講読文献のレジュメを作成する。参加者全員が授業までに文献に目を通しておく。授業はディスカッションが中心となる。ディスカッションに参加しない人、経済人類学や人類学そのものに関心がない人は、受講しないこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での議論(100%)

テキスト (Textbooks)

テキストは授業内で指示する。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

経済人類学や人類学そのものに関心がない人は、受講しないこと。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB751／現代文化社会論 (Contemporary Culture and Society)		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代文化と社会の関係性に関する理論研究やフィールド調査研究／リサーチプロジェクト、研究発表などへの参加を通じて、自らの研究を発展させていくことを目標とする。

This course provides an opportunity to study theories and practices of the relationship between contemporary culture and society.

授業の内容 (Course Contents)

授業では、第一に、現代文化と社会的諸主体・制度・権力との関係性などに関する、文化批評理論や文化社会学、文化政策研究などの分野の理論研究を行っていく。さらに、履修者各自の問題意識やテーマ設定に基づいた研究発表およびディスカッションを実施する。その他、履修者の関心に基づきながら、随時、実践プロジェクトやフィールドワークへの参加を行う場合もある。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- research presentations
- field research, practical projects

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. プロジェクト／フィールドワーク
6. 研究発表
7. 研究発表
8. 研究発表
9. 文献講読
10. 文献講読
11. プロジェクト／フィールドワーク
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献講読ならびに研究発表では、事前の発表準備等を行うことが必須となる。また、研究発表に関しては、自ら事前・追加調査研究を行うことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加(文献講読、研究発表、ディスカッションへの参加 ほか)(100%)

テキスト (Textbooks)

履修者の関心に合わせ、指定する。

参考文献 (Readings)

都度、紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB757／音楽社会学研究 (Sociology of Music)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	音楽社会学研究の理論的潮流		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	未定	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

音楽社会学研究を進める上で必要となる基礎的な理論を修得するとともに、音楽社会学の成立経緯やその現代的な問題点などを理解する。

In this class, the instructor treat a basic theory which is needed when advancing sociology-of-music research. Students will be expected to understand the circumstances where sociology-of-music was established, and study its up-to-date problems.

授業の内容 (Course Contents)

音楽社会学の広がり具体的な研究手法を、既存の文献の読解を通じて学ぶ。文献には基本的に日本語のものをを用いるが、毎回多くの文章を読むため、受講者には十分な日本語の読解力が求められる。

Students will read important documents every week. Documents are written in Japanese basically. Students are required to have sufficient reading skills of Japanese.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読 1
3. 文献講読 2
4. 文献講読 3
5. 文献講読 4
6. 文献講読 5
7. 文献講読 6
8. 文献講読 7
9. 文献講読 8
10. 文献講読 9
11. 文献講読 10
12. 文献講読 11
13. 文献講読 12
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での発表および課題(100%)

テキスト (Textbooks)

授業内で指示する。

参考文献 (Readings)

1. 根岸一美(他編)、2003、『音楽学を学ぶ人のために』、世界思想社 (ISBN:4790710335)
2. ジョン・シェパード(他編)、2005、『ポピュラー・ミュージック・スタディーズ：人文学の最前線』、音楽之友社 (ISBN:4276230020)
3. マーティン・クレイトン(他編)、2011、『音楽のカルチュラル・スタディーズ』、アルテスパブリッシング (ISBN:9784903951409)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

書籍の輪読をベースとするが、適宜音例なども用いる。予め担当を決めて発表を求めることもある。文献の選択についてはある程度学生の興味・関心も反映させる予定である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB758／音楽社会学演習 (Seminar: Sociology of Music)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	音楽社会学研究の最先端:ミュージッキングの可能性		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

音楽社会学の先進的な研究成果に触れ、自身の研究に活用できるようになる。

Students will be exposed to the results of advanced study in the sociology of music, and will be able to utilize the results in their own research.

授業の内容 (Course Contents)

2021 年末に刊行された『音楽の未明からの思考』(日本語・教科書指定)を手引きとして、「ミュージッキング」の概念を習得する。その上で、自身も「ミュージッキング」の観点に立った研究分析を行い、レポートを執筆する。受講者には十分な日本語の読解力が求められる。

Students will learn the concept of "Musicking" by using "Ongaku no mimei karano shikou" (a textbook written in Japanese, 2021), as a guide. Then, they will conduct their own research and analysis from the perspective of "Musicking," and write a report.

Students are required to have sufficient reading skills of Japanese.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション:ミュージッキングとは何か
2. 輪読①
3. 輪読②
4. 輪読③
5. 輪読④
6. 輪読⑤
7. 輪読⑥
8. 輪読⑦
9. レポート発表①
10. レポート発表②
11. レポート発表③
12. レポート発表④
13. レポート発表⑤
14. レポート発表⑥

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レポートの執筆と発表プレゼンテーションの準備

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業内発表(40%)/授業中の積極的な発言(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 野澤豊一(他)、2021、『音楽の未明からの思考——ミュージッキングを超えて』、アルテスパブリッシング (ISBN:4865592474)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

受講者は事前に教科書を購入し最初の授業に持参すること

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB762／教育社会学演習 (Seminar: Sociology of Education)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	学校教育、家庭教育と格差		
担当者名 (Instructor)	香川 めい(KAGAWA MEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、学校教育や家庭教育に関する日本語・英語文献を読むことを通じて、格差や階層と教育という営みの関連を包括的にとらえることを目的とする。文献の報告担当者は内容に関するプレゼンを行う。報告担当以外の受講生もコメントを用意し、全員でディスカッションを行う。このようにして文献の理解を深めることで教育社会学的な概念の理解や視野を獲得することを目指す。

This course aims to comprehensively understand inequality and education through reading literature on the school system and parenting. By deepening their understanding of the literature, students aim to acquire sociological concepts and perspectives in education.

授業の内容 (Course Contents)

学校教育や家庭教育に関する教育社会学分野の文献を取り上げる。各回について文献レビュー担当を割り振るが、ディスカッションを実りあるものとするために出席者は全員事前に文献を読み、コメントを用意してくることが求められる。

Literature in the field of sociology of education related to the school system and parenting will be assigned. Students participating in this course are expected to read the literature and prepare comments in advance in order to make the discussion fruitful.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション・割り当て
2. 文献講読と議論 1
3. 文献講読と議論 2
4. 文献講読と議論 3
5. 文献講読と議論 4
6. 文献講読と議論 5
7. 文献講読と議論 6
8. 文献講読と議論 7
9. 文献講読と議論 8
10. 文献講読と議論 9
11. 文献講読と議論 10
12. 文献講読と議論 11
13. 文献講読と議論 12
14. 文献講読と議論 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

事前に文献は読み、各々疑問点やコメントを用意すること。報告担当者は、レジュメを準備し、責任をもって文献の紹介を行うこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

指定された文献の紹介・発表(50%) / 普段の議論への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

指定しない。取り上げる文献は初回に紹介する。

参考文献 (Readings)

特になし。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

初回に文献の紹介および、各回の担当者の割り当てを行うので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB763／Webスタディーズ論研究 (Research on Web studies)		
担当者名 (Instructor)	川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

個人の関心を持つ社会課題・現象などに対して Web 上でのデータを用いた分析を可能とする。
文献調査や、それらに付随したフィールドワークなども検討している。まずは基礎的な研究・現状などを知っていただく機会にもする。

The aim of this course is to enable analysis of social issues and phenomena with personal interest using data on the Web.

Through this course, students are expected to examine literature research and accompanying field work. First of all, students are given an opportunity to learn about basic research and the current situation.

授業の内容 (Course Contents)

主として、Web の歴史概要に触れつつ、データサイエンスの手法を用いて対象に接近していくが、新聞記事や統計資料などの取得可能なデータなどを用い、理解を深めていく。授業資料及びテキスト・画像・映像などを組み合わせた内容となる。また、授業参加者で作成したアンケート結果(リアルタイム)を共有しながら進行する。

注意: 分析対象などは、社会情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

While approaching the target mainly by using the data science method as we touch on the history overview of the Web, students are expected to understand deeply by using available data such as newspaper articles and statistical materials. This course deals with a combination of class materials, texts, images, and videos. In addition, it progresses as we share the questionnaire results (real time) created by the class participants.

Note: Please be advised that the subject of analysis may change depending on social conditions.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・希望する分析テーマのためのブレインストーミング
2. インターネットの歴史をデータから振り返る
3. インターネットの発達と恩恵
4. 研究テーマの検討・分析手法の紹介1
5. 研究テーマの検討・分析手法の紹介2
6. 論文検索および先行研究調査1・議論
7. 論文検索および先行研究調査2・議論
8. 研究テーマの発表および議論1
9. 研究テーマの発表および議論2
10. 分析・プレゼンテーション準備1
11. 分析・プレゼンテーション準備2
12. 分析・プレゼンテーション準備3
13. 編集・まとめ(発表会予備)
14. 発表会(予定・人数が多い場合は 13 回目から発表会)
ライトニング・プレゼンテーション形式(5分発表/5分質疑応答)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎週、Web アンケートを用いた課題を出し、翌週のゼミ時間にアンケート結果のデータと付随した情報を参照して意見交換を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度および普段の取り組みの姿勢(出席の割合など)(40%) / 最終レポート(Final Report)(40%) / 授業参加度および普段の取り組みの姿勢(提出物・プレゼンの割合など)(20%)
期末最終レポートの提出を単位取得の要件とする。

テキスト (Textbooks)

1. 鳥海不二夫(編著), 石井晃, 岡田勇, 上東貴志, 小林哲郎, 榊剛史, 笹原和俊, 高野雅典, 瀧川裕貴, 常松淳, 三浦麻子, 水野貴之, 山本仁志, 吉田光男, 2021, 『計算社会科学入門』, 丸善出版 (ISBN:4621305964)

参加者の興味・関心に偏るため、追って指導する。

参考文献 (Readings)

1. 遠藤 薫、2016、『ソーシャルメディアと「世論」形成：間メディアが世界を揺るがす』、東京電機大学出版局 (ISBN:4501630000)
2. 吉川徹、2021、『ゲーム・ネットの世界から離れられない子どもたち：子どもが社会から孤立しないために』、合同出版 (ISBN:4772611533)
3. 田中辰雄、山口真一著、2016、『ネット炎上の研究：誰がおり、どう対処するのか』、丸善出版草書房版 (ISBN:4326504226)
4. クリストファー・G.プリントン、ムン・チャン共著；臼井翔平、2016、『パワー・オブ・ネットワーク：人々をつなぎ社会を動かす6つの原則』、森北出版 (ISBN:9784627818118)
5. マシュー・J.サルガニック (著)、瀧川 裕貴 (翻訳)、常松 淳 (翻訳)、阪本 拓人 (翻訳)、大林 真也 (翻訳)、2019、『ビット・バイ・ビット：デジタル社会調査入門』、有斐閣 (ISBN:4641174482)

参加者の興味・関心に偏るため、追って指導する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB765／経済社会学 (Economic sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「埋め込みアプローチ」の展開		
担当者名 (Instructor)	大倉 季久(OHKURA SUEHISA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済現象を捉える基本的な視点として、「埋め込みアプローチ」の特徴を理解すること、および「埋め込みアプローチ」を通して今日起こっている経済現象の背後に存在するさまざまな問題の様相を社会的に認識すること。

Understanding the notion of embeddedness as a basic perspective on economic phenomena, and sociologically recognizing the various problems behind the economic phenomena that are occurring today through the notion of embeddedness.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、1980年代後半以降、アメリカを中心に発展してきた「新しい経済社会学」の潮流をもとに、経済現象を社会的に考える視点と方法について概説する。とくに市場メカニズムの現代的な特徴の解明に焦点を据えて、経済現象を読み解く視点としての「埋め込みアプローチ」の特色について紹介していく。

This course is an introduction to sustainability studies. We will outline the viewpoints and methods of sociologically thinking about economic phenomena, based on the trend of "new economic sociology" that has developed mainly in the United States since the latter half of the 1980s. Focusing on the the modern characteristics of the market mechanism, we will introduce the notion of embeddedness as a perspective of understanding economic phenomena.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション—経済学と経済社会学
2. 埋め込みアプローチの基礎(1)市場の時代としての現代社会
3. 埋め込みアプローチの基礎(2)ネットワーク理論①弱い紐帯の強さ
4. 埋め込みアプローチの基礎(3)ネットワーク理論②ネットワークの開放性と閉鎖性
5. ビジネスの日常へ(1)市場の中のネットワーク
6. ビジネスの日常へ(2)企業の秩序としての業界
7. ビジネスの日常へ(3)経済と権力
8. 世界経済のグローバル・シフトは何をもたらしているのか
9. 転職とキャリア
10. 仕事と家族
11. 経済と文化(1)市場と文化
12. 経済と文化(2)経済資本・文化資本・社会関係資本
13. 経済と文化(3)「人間の経済」と市場社会
14. まとめとふりかえり

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本授業は経済社会学の理論的な枠組みの概説が中心となる。具体的な事例について、日ごろから新聞の経済関連の記事に目を通していくことが理解を深める早道である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

ディスカッションへの参加(50%)/授業内レポート(50%)

テキスト (Textbooks)

各回の内容に合わせて指示する。

参考文献 (Readings)

1. 山田真茂留、2017、『集団と組織の社会学』、世界思想社
2. 今井順、2021、『雇用関係と社会的不平等』、有斐閣
3. ニーアル・ファーガソン、2019、『スクエア・アンド・タワー』、東洋経済新報社

4. 小林盾ほか編、2022、『リーディングス・合理的選択理論』、勁草書房

第2回からの6回分の授業では、上記のうちから1冊を初回に選んで講読する予定である。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB766／経済社会学演習 (Seminar: Economic sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済社会学の現在		
担当者名 (Instructor)	大倉 季久(OHKURA SUEHISA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済社会学の基本的な理論と視点に関する理解を前提として、世界的な潮流もふまえながら、経済社会学の近年の新たな展開を、文献講読を通して理解を深める。

To deepen the understanding of recent new developments in economic sociology through reading literature, taking into account not only Japanese but also global trends, Based on an understanding of the basic theory of economic sociology.

授業の内容 (Course Contents)

この授業ではまず、経済社会学のアプローチについて、マーク・グラノヴェター (Mark Granovetter) の諸理論を中心に、主に文献講読を通して検討する。グラノヴェターの業績は多岐にわたるが、この授業では最も新しい研究に関する検討から始めて、時間を遡りながら議論を深めていきたいと思っている。そのうえで、経済社会学の理論動向と関連する論文を講読する。

This course examines the approach of economic sociology, focusing on Mark Granovetter's theories, through reading the literature. Granovetter's achievements are diverse, but in this class we would like to start with his recent research and go back in time to deepen the discussion

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 経済社会学の学説史に関するレクチャー
3. 文献講読とディスカッション
4. 文献講読とディスカッション
5. 文献講読とディスカッション
6. 文献講読とディスカッション
7. 文献講読とディスカッション
8. 文献講読とディスカッション
9. 文献講読とディスカッション
10. 文献講読とディスカッション
11. 文献講読とディスカッション
12. 文献講読とディスカッション
13. 文献講読とディスカッション
14. まとめとふりかえり

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

週ごとに指定される文献を必ず読んでくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

ディスカッションへの参加(50%)/授業内レポート(複数回実施する)(50%)

テキスト (Textbooks)

受講生と相談のうえ決定する。

参考文献 (Readings)

1. マーク・グラノヴェター、2019、『社会と経済』、ミネルヴァ書房
 2. 筈井俊輔、2021、『なぜ特異な仕事は生まれるのか』、京都大学学術出版会
 3. 山田陽子、2007、『「心」をめぐる知のグローバル化と自律的個人像』、学文社
 4. 山田陽子、2019、『働く人のための感情資本論』、青土社
- そのほか、適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB768／ジェンダー演習 (Seminar: Gender Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	トランスジェンダー・スタディーズ		
担当者名 (Instructor)	鶴田 幸恵(TSURUTA SACHIE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

トランスジェンダー現象からジェンダーの社会学について理解を深められるようになることを目標とする。

Students will acquire a deep understanding of gender studies from transgender phenomena by reading texts about gender studies about transgender.

授業の内容 (Course Contents)

テキストを読むことによって、セックス・ジェンダー・セクシュアリティという社会学の区分のありようを議論し直したり、ジェンダーの多様性やインターナクショナリティについて、理解を深める。

Students will read text and have discussions about the way sociology distinguishes sex, gender, and sexuality and what is gender diversity and intersectionality.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献の購読
3. 文献の購読
4. 文献の購読
5. 文献の購読
6. 文献の購読
7. 文献の購読
8. 文献の購読
9. 文献の購読
10. 文献の購読
11. 文献の購読
12. 文献の購読
13. 文献の購読
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加の積極性(50%)／報告・発表内容(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB772／社会学特殊研究B (Special Study on Sociology B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	言説の社会的分析の基礎		
担当者名 (Instructor)	仁平 典宏(NIHEI NORIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ・言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解する
- ・それぞれの方法には、どのような前提と課題があるのか理解する
- ・簡単な計量テキスト分析(テキストマイニング)ができるようになる

The aim of the class is to understand a variety of methodologies in the sociological analysis of discourse, to understand the assumptions and difficulties in each method, and to be able to perform simple quantitative text analysis.

授業の内容 (Course Contents)

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはKHコーダー等を用いたワークも活用しながら理解を深めていきたい。

なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、投稿論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の布置を理解できるようになることが主な目的である。

It has been produced a lot of sociological studies on discourses, which are based on a variety of theories and methodologies including social constructionism, Foucauldian discourse analysis, and text-mining using natural linguistic processing. Each study can be reviewed not only its originality but also the validity of analytical procedure and the ontological/epistemological assumption about the relationship between discourse and society.

The aim of the class is to gain a basic understanding of what sorts of sociological methodologies of analysis of discourse there are and what presumption and limit each one has. Participants are supposed to read designated texts, to take part in discussions on them actively, and to engage in a trial work.

Participants are not required an experience of studying discourses.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 社会学における言説研究の動向
3. 言説と構築主義
4. 方法論的構築主義の展開と困難
5. 言説と「実態」——統計の位置づけについて
6. 権力と言説
7. 歴史と言説
8. 概念分析について1
9. 概念分析について2
10. 対話的構築主義をめぐって
11. 計量テキスト分析のロジックと方法
12. 計量テキスト分析の実際1
13. 計量テキスト分析の実際2
14. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

基本的に、事前に検討文献を読み、疑問点や感想等をまとめた簡単なコメントメモを作成の上、授業に臨む。毎回の議論は、そのメモに基づき行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポーターとしての報告(40%)/毎回の議論への参加(60%)

テキスト(Textbooks)

初回に連絡する。

参考文献(Readings)

1. 佐藤俊樹・友枝敏雄編、『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』、東信堂
2. スペクター, J.I. & キッセ, M.B.、『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』、マルジュ社
3. 中河伸俊・赤川学編、『方法としての構築主義』、勁草書房
4. 酒井泰斗他編、『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』、ナカニシヤ出版
5. 樋口耕一、『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【2 版】』、ナカニシヤ出版
6. 仁平典宏、『ボランティアの誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』、名古屋大学出版会

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<https://researchmap.jp/nihenori>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB774／社会学特殊研究D (Special Study on Sociology D)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	支援の社会学		
担当者名 (Instructor)	佐藤 恵(SATO KEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

困難を抱える当事者とそれをサポートする支援者の経験について、支援と「支え合い」のテーマ(震災復興支援、障害者支援、犯罪被害者支援 等)に関する視点・発想をふまえた上で、具体的事例の検討を通して、理解を深めていきます。
なお、関連するテーマとして、以下を設定します。

- * 排除／包摂
- * 排除された人々の抵抗やアイデンティティ・マネジメントとその支援
- * 異質性への対処／異文化共生
- * ボランティア／NPO
- * ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ 等

Students will study party involved and burdened by hardships, as well as benefactor experience from perspective of unilateral and mutual support. Students will deepen their understanding by discussing specific cases.

授業の内容 (Course Contents)

「授業の目標」に記した、支援と「支え合い」のテーマ、および関連テーマに関する文献を講読し、基本的な視点・発想を共有した上で、参加者各自が関心を持つ具体的事例についてプレゼンテーションを行い、それをもとにしたディスカッションを通して、互いの問題意識の明確化、社会学的考察の深化を図ります。

Students will read texts on unilateral and mutual support. They will share their basic perspectives and ideas. After that, they will select specific cases they are interested in and make presentations. By participating in subject discussions, they will clarify their issue awareness and deepen their sociological analysis.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 文献講読とディスカッション(1)
3. 文献講読とディスカッション(2)
4. 文献講読とディスカッション(3)
5. 文献講読とディスカッション(4)
6. 文献講読とディスカッション(5)
7. 文献講読とディスカッション(6)
8. 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(1)
9. 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(2)
10. 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(3)
11. 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(4)
12. 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(5)
13. 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(6)
14. まとめ・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

「授業の目標」に記した、支援と「支え合い」を中心とする各テーマについて、自分の関心のある具体的事例を取り上げ、適宜、資料を収集しつつ、各回の授業で学んだ視点・発想を応用する練習をしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

文献講読、プレゼンテーション(50%)／ディスカッションへの参加(50%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しません。

参考文献 (Readings)

1. 崎山・伊藤・佐藤・三井 編、2008、『〈支援〉の社会学：現場に向き合う思考』、青弓社 (ISBN:ISBN978-4-7872-3291-5)
 2. 伊藤智樹 編、2013、『ピア・サポートの社会学：ALS、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』、晃洋書房 (ISBN:ISBN978-4-7710-2481-6)
 3. 佐藤恵、2010、『自立と支援の社会学：阪神大震災とボランティア』、東信堂 (ISBN:ISBN978-4-88713-949-7)
 4. 天田・渡辺 編、2015、『大震災の生存学』、青弓社 (ISBN:ISBN978-4-7872-3392-9)
 5. 栗原彬 編、1997、『共生の方へ：講座 差別の社会学 第4巻』、弘文堂 (ISBN:ISBN4-335-50154-4)
 6. 奥村隆、1998、『他者という技法：コミュニケーションの社会学』、日本評論社 (ISBN:ISBN4-535-56068-4)
 7. 梶原景昭 他、1997、『異文化の共存：岩波講座 文化人類学 第8巻』、岩波書店 (ISBN:ISBN4-00-010748-8)
- 上記以外にも、授業中に随時、紹介します。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

教材 PDF の配布や連絡事項のお知らせ等に授業支援システムを使用します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB775／社会学特殊研究E (Special Study on Sociology E)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	後期近代における社会心性を考える		
担当者名 (Instructor)	土井 隆義(DOI TAKAYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代の日本では、いわゆる「モノ消費」から「コミュニケーション消費」への移行が、急激に進行しています。また「包摂型の社会」から「排除型の社会」への移行が加速しているともいわれます。その諸相を支える社会心性と、その社会的背景について、社会学の概念を応用しながら検討していきます。

In modern Japan, we are moving rapidly from object to communication consumption. We can also say that society is moving from inclusion to exclusion. Students will apply sociology concepts when discussing social contexts and psychologies that have supported these phenomena.

授業の内容 (Course Contents)

最初に、現代の社会統制における諸問題について、ジョック・ヤングの『排除型社会』の講読を行ないつつ、後期近代という観点から論点整理とその社会学的含意の検討を行ないます。次に、現代の日本で進行しつつある特徴的な諸現象について、後期近代に関する様々な文献を参照にしつつ、また具体的な事例を素材として取り上げながら、その社会学的含意を検討していきます。履修学生には、文献の報告を行なうだけでなく、具体的な社会現象を取り上げて独自に調査し、その内容について報告することが求められます。

First, students will read Jock Young's *The Exclusive Society*, which discusses various problems in governing modern society. Students will organize their arguments from late modern-age perspective and discuss their sociological significances. Next, students will refer to various literatures about the late modern-age to study unique phenomena taking place in modern Japan. Students will select specific cases as materials and discuss their sociological significances. Students will not only make literature reports, they will also select and research specific social phenomena, and create reports on their findings.

授業計画 (Course Schedule)

1. 共通文献の輪読をおこなう(1)
2. 共通文献の輪読をおこなう(2)
3. 共通文献の輪読をおこなう(3)
4. 共通文献の輪読をおこなう(4)
5. 各自が関心のある社会現象を選択し、その概要について報告する(1)
6. 各自が関心のある社会現象を選択し、その概要について報告する(2)
7. 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(1)
8. 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(2)
9. 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(3)
10. 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(4)
11. 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(1)
12. 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(2)
13. 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(3)
14. 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で自分が取り上げる社会現象について、予め選択し、調査を開始しておくことが望ましいでしょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

輪読における報告内容(20%)／選択テーマの報告内容(20%)／個別文官の報告内容(20%)／研究成果の報告内容(20%)／討論への参加度(20%)

テキスト (Textbooks)

1. ジョック・ヤング、2007、『排除型社会』、洛北出版 (ISBN:9784903127040)

参考文献 (Readings)

1. ジョック・ヤング、2016、『後期近代の眩暈』、青土社
2. デボラ・チェンバース、2015、『友情化する社会』、岩波書店
3. アンソニー・ギデンズ、2005、『モダニティと自己アイデンティティー後期近代における自己と社会』、ハーベスト社
4. ジークムント・バウマン、2001、『リキッド・モダニティ』、大月書店 (ISBN:4272430572)
5. ウルリヒ・ベック、1998、『危険社会』、法政大学出版局
6. アンディ・ファーロン／フレッド・カートメル、2009、『若者と社会変容』、大月書店
7. 土井隆義、2012、『少年犯罪〈減少〉のパラドクス』、岩波書店

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	MB776／社会学特殊研究F (Special Study on Sociology F)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	フィールドワークに基づく地域社会学・環境社会学		
担当者名 (Instructor)	松村 正治(MATSUMURA MASA HARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・フィールドワークを実施して得られた質的なデータに基づき、社会的な問いを設定して分析・考察できるようになること。
- ・研究する者(自分)の立場性や研究する際の視点について、批判的に(自省的に)考えられるようになること。
- ・To be able to set up, analyze, and discuss sociological questions based on qualitative data obtained through fieldwork.
- ・To be able to think critically and self-reflexively about the positionality of the researcher and the perspective of research.

授業の内容(Course Contents)

おもに地域社会学・環境社会学におけるテキストを取り上げ、ディスカッションを通して、社会的な方法論を批判的に検討し、その可能性と限界について考えます。
個別具体的な社会現象を記述するだけではなく、そのデータをどう扱うと面白くなるのかを考えます。したがって、学術的な面白さとは何かについて深く考えることを求めます。

We will take up texts mainly in regional sociology and environmental sociology, and critically examine sociological methodologies through discussions and consider their possibilities and limitations.

We will not only describe specific social phenomena, but also think about how to deal with the data to make it interesting.

Therefore, you need to think deeply about what is academically interesting..

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス・授業計画の検討
2. 研究する者の立場性/位置性(ポジショナリティ)
3. 公共社会学という方法:どのように規範は語れるのか
4. 発表(コメント)とディスカッション(1)
5. 発表(コメント)とディスカッション(2)
6. ゲストスピーカーとの対話①
7. 私たちの未来社会:成長か脱成長か反貧困か
8. 個人のライフストーリーから社会を考える
9. 社会の時間・空間スケールの重層性
10. 発表(コメント)とディスカッション(3)
11. 発表(コメント)とディスカッション(4)
12. ゲストスピーカーとの対話②
13. 履修生からの問題提起
14. 総合討論・まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で取り上げるテキストを読み、議論すべきポイント(論点)と、それに対する自分の考えを準備してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表内容(Presentation)(50%)/ディスカッションへの貢献(Discussion)(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. ケン・ブラマー、2021、『21世紀を生きるための社会学の教科書』、筑摩書房 (ISBN:4480510311)
2. 岸政彦編、2021、『東京の生活史』、筑摩書房 (ISBN:4480816836)
3. 渡辺一史、2011、『北の無人駅から』、北海道新聞社 (ISBN:4894536218)
4. 宮内泰介編、2013、『なぜ環境保全はうまくいかないのか:現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』、新泉社

(ISBN:4787713019)

5. 小熊英二、2015、『生きて帰ってきた男：－ある日本兵の戦争と戦後』、岩波書店 (ISBN:4004315492)
 6. 菅豊・北條勝貴編、2019、『パブリック・ヒストリー入門：開かれた歴史学への挑戦』、勉誠出版 (ISBN:4585222545)
 7. 野村康編、2017、『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』、名古屋大学出版会 (ISBN:4815808767)
- 小倉美恵子(2011)『オオカミの護符』新潮社.
瀧口夕美(2013)『民族衣装を着なかったアイヌ：北の女たちから伝えられたこと』編集グループSURE.
永野三智(2018)『みな、やっとの思いで坂をのぼる：水俣病患者相談のいま』ころから.
上間陽子(2020)『海をあげる』筑摩書房.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

担当者の HP <https://marrmur.com/>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX101／社会学基礎論 (Foundations of Sociology)		
担当者名 (Instructor)	松本 康(MATSUMOTO YASUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

大学院後期課程レベルでの社会学的研究に必要な理論的基礎について理解を深める。理論的研究を志す学生はもちろんのこと、経験的研究を志す学生にとっても、各自の研究の理論的位置づけを論述できるようにする。

授業の内容 (Course Contents)

社会学は、市民革命と産業革命を背景として、18世紀末から19世紀初頭にヨーロッパにおいて形成され、20世紀に入って、米国で著しい発展をみた。この授業では、草創期の社会学(サンシモン、コント、スペンサー)の概要を理解したうえで、闘争理論(マルクス)、社会学的実証主義(デュルケム)、相互作用論(ジンメル)、理解社会学(ヴェーバー)など19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学の展開を追うとともに、米国における社会学理論の発展を、シカゴ学派、構造機能主義、コロンビア学派の3つの系譜によって整理する。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 草創期の社会学: サンシモン、コント、スペンサー
3. 闘争理論の源流: カール・マルクス
4. 社会学的実証主義: エミール・デュルケム
5. 相互作用と社会化の諸形式: ゲオルク・ジンメル
6. 討論: マルクス、デュルケム、ジンメル
7. 都市と社会改革: ロバート・パークとシカゴ学派
8. 理解社会学: マックス・ヴェーバー
9. 構造機能主義(1): タルコット・パーソンズ
10. 討論: シカゴ学派、ヴェーバー、パーソンズ
11. 構造機能主義(2): マートンとスメルサー
12. 計量社会学: ラザースフェルドとコロンビア学派
13. シンボリック相互作用論と現象学的社会学
14. 討論: マートン、ラザースフェルド、ブルーマー

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

リーディング・アサインメントにもとづく小レポート課題(1600字)を授業期間中10回課す。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

小レポート10回分(50%)/授業へのリアクション(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

授業時にレジュメを配布する。リーディング・アサインメントの教材はBlackboard上でも利用できる。

参考文献 (Readings)

1. C.W.ミルズ、2017年、『社会学的想像力』、筑摩書房 (ISBN:4480097813)
2. マルクス＝エンゲルス、1952年、『共産党宣言 共産主義の原理』、大月書店
3. デュルケム、1978年、『社会学的方法の規準』、岩波書店 (ISBN:4003421434)
4. 松本康編、2011年、『都市社会学セレクション1 近代アーバンイズム』、日本評論社 (ISBN:453558592X)
5. マックス・ヴェーバー、1972年、『社会学の根本概念』、岩波書店 (ISBN:4003420969)
6. タルコット・パーソンズ、1974年、『社会体系論』、青木書店 (ISBN:425074017X)
7. ロバート・K・マートン、1961年、『社会理論と社会構造』、みすず書房 (ISBN:4622017059)
8. ラザースフェルド他『ピープルズ・チョイス』、芦書房、1987年
9. ハーバート・ブルーマー『シンボリック相互作用論』、勁草書房、1991年

翻訳については、他の版を使用してもかまわないし、外国語訳を使用してもかまわない。入手不可能なものは、図書館を利用すること。詳細は第1回目に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

小レポートの提出は原則として Blackboard を使用する。小レポートのフィードバックは、討論の回に実施する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX102／現代社会学理論 (Modern Sociological Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	批判的社会理論を読む		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

講読によって現代社会学理論の潮流を学び、それを自身の研究に対して応用的に使えるようになる。

授業の内容(Course Contents)

この授業は現代社会学理論の潮流を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は「批判的社会理論」の思考枠組をとらえるために、「社会学」、「哲学」、「美学」の関連について学んでいきたい。

発表は、各人の文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 文献講読

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでおくことを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表と討論(100%)

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する

テキスト(Textbooks)

1. Theodor W. Adorno, Walter Benjamin, Ernst Bloch, Bertolt Brecht, Georg Lukacs. 2020. Aesthetics and Politics. Verso Books
2. Theodor W. Adorno. 2019. Philosophical Elements of a Theory of Society. Polity
3. Henrik Kaare Nielsen. 2018. Aesthetics and Political Culture in Modern Society. Routledge
4. Theodor W. Adorno. 2020. The Culture Industry: Selected Essays on Mass Culture. Routledge
5. David Jenemann. 2007. Adorno in America. Univ Of Minnesota Press

上述にあげたものはあくまで候補であり、実際には受講生との相談の上、読んでいく書物を決めたい。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX103／相互行為論 (Social Interaction)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	相互行為論の基本的な考え方・分析の態度		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会学における相互行為論の基本的な考え方を理解し、事例分析の能力を習得する。

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、E.ゴフマンの著作およびエスノメソドロジー・会話分析を含む、相互行為研究について検討する。また、参加者の関心に従って、具体的な事例分析の検討を行う機会を設ける予定である。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献の報告・事例の検討
3. 文献の報告・事例の検討
4. 文献の報告・事例の検討
5. 文献の報告・事例の検討
6. 文献の報告・事例の検討
7. 文献の報告・事例の検討
8. 文献の報告・事例の検討
9. 文献の報告・事例の検討
10. 文献の報告・事例の検討
11. 文献の報告・事例の検討
12. 文献の報告・事例の検討
13. 文献の報告・事例の検討
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加の積極性(50%)／報告・発表内容(事例分析にかかわる高水準の報告を含む)(50%)
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

授業時に指示する。

参考文献 (Readings)

授業時に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX104／社会階層論 (Social Stratification)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	格差と不平等の社会学		
担当者名 (Instructor)	永吉 希久子(NAGAYOSHI KIKUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目的は、社会階層研究の日本語・英語の文献を通して、格差がどのように生じているのかについての主要な理論を理解し、それをもとに自分なりに研究を発展させるための視点を身につけることにある。学生は割り当てられた文献のレビューを行い、コメントをつけてプレゼンを行うこと、またそのプレゼンに対しディスカッションを行うことが求められる。

授業の内容 (Course Contents)

授業では初回に担当を割り振り、担当回の学生は、予め社会階層に関するテキストの指定範囲、もしくは指定した日本語・英語論文のレビューを行い、授業で報告する。この報告を通し、社会階層と不平等研究の基本的な概念や理論的な枠組みの知識を身につけることが期待される。なお、授業で扱う論文では高度な統計的手法が用られている可能性があるが、そうした分析手法に関する予備的知識は要しない。必要に応じて、それらの方法については講師が解説を加える。授業の目的は統計的手法の習得ではなく、論文の中の理論的・実質的な内容の理解にある。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション・分担の割り当て
2. テキスト 1 章・2 章
3. テキスト 3 章・4 章
4. テキスト 5 章・6 章
5. テキスト 7 章・8 章
6. テキスト 9 章・10 章
7. 社会階層に関する論文の輪読 1
8. 社会階層に関する論文の輪読 2
9. 社会階層に関する論文の輪読 3
10. 社会階層に関する論文の輪読 4
11. 社会階層に関する論文の輪読 5
12. 社会階層に関する論文の輪読 6
13. 社会階層に関する論文の輪読 7
14. 社会階層に関する論文の輪読 8

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定文献は予め目を通しておくこと。発表担当者はレジュメを用意する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当回での報告(60%)/授業への貢献(発言など)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 平沢和司、2021、『格差の社会学入門(第2版)』、北海道大学出版会 (ISBN:9784832968813)
- テキストは入手しておく。その他の論文は、初回に案内する。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

初回に授業の方針を説明し、割り当てでも行うので、履修希望者は必ず出席すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX105／ジェンダーとセクシュアリティ (Gender and Sexuality)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	東アジアのフェミニズムと日本の脱帝国主義		
担当者名 (Instructor)	熱田 敬子(ATSUTA KEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- (1)フェミニズムと、ポストコロニアルな状況、侵略戦争、新旧の帝国主義、民主化などの歴史・社会構造の関係を理解できるようになること。
- (2)現在のフェミニズムの課題が、東アジアの諸地域で互いにつながっていることを知ること。
- (3)差別を社会構造として理解し、分析すること。
- (4)上記3点を他者に説明できるようになること。

授業の内容(Course Contents)

フェミニズムが、いま「ブーム」になっているという。

しかし、日本を例にとれば、つい10年ほど前までフェミニズム、男女平等、性の多様性などへの激しい攻撃、ジェンダー・バックラッシュが起きていた。保守的なジェンダー秩序は、天皇制・戸籍などの基礎として日本社会に埋め込まれ、日本の植民地構造を維持、復活させようとする右派勢力はそれを強化しようとしている。

東アジアの諸地域における多くのフェミニズムの課題は、このようにインターセクショナルな歴史・社会構造を抜きに理解できない。本演習では、中国・韓国・台湾・香港と日本で起きている現在進行形の問題から、フェミニズムと、植民地支配とその後のポストコロニアルな状況、侵略戦争、新旧の帝国主義、民主化などの歴史・社会構造の関係を分析、考察する。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 概論：東アジアのフェミニズム
3. 差別構造としての日本社会(1)戸籍・天皇制・結婚
4. 差別構造としての日本社会(2)歴史否定・ジェンダーバックラッシュ・ヘイトスピーチ
5. 差別構造としての日本社会(3)結節点としての日本軍性暴力／性奴隷制
6. 中国におけるフェミニズム(1)社会主義と草の根フェミニズム
7. 中国におけるフェミニズム(2)陰道独白とクィア・アクティビズム
8. 韓国におけるフェミニズム(1)民主化運動とフェミニズム
9. 韓国におけるフェミニズム(2)#MeTooと脱植民地
10. 台湾におけるフェミニズム(1)阿嬤たちの戦後
11. 台湾におけるフェミニズム(2)セックスワークか女性の保護か
12. 香港におけるフェミニズム(1)民主化運動とフェミニズム
13. 香港におけるフェミニズム(2)教会とフェミニズム
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

演習では毎回、課題文を事前に読んで参加することを求める。

担当者を決めて発表も課すため、発表の準備にも取り組む必要がある。

また、数回程度、博物館などを課外で見学することを求める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/授業内での発表・小課題(30%)/平常点(ディスカッション参加・考察記入)(20%)

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する

テキスト(Textbooks)

1. 熱田敬子・金美珍・梁永山聡子・張瑋容・曹曉彤編著、2022、『ハッシュタグだけでは始まらないー東アジアのフェミニズム・ムーブメント』、大月書店 (ISBN: 9784272350575)

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX106／人種とエスニシティ (Race and Ethnicity)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人種・エスニシティをめぐる社会学(人類学)理論を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

教科書と具体的な事例分析を通じ、人種とエスニシティをめぐる論点についてより掘り下げた理解を深め、各自の博士論文に活かすことができる視座を発見することを、本授業の目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

履修者の博士論文の主題と人数に応じて、適切な数と内容の論文を取り上げ、グローバル化をめぐる社会学・人類学の主要な理論について掘り下げて学んでいく。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献購読＋グループ・ディスカッション 1
3. 文献購読＋グループ・ディスカッション 2
4. 文献購読＋グループ・ディスカッション 3
5. 文献購読＋グループ・ディスカッション 4
6. 文献購読＋グループ・ディスカッション 5
7. 文献購読＋グループ・ディスカッション 6
8. 文献購読＋グループ・ディスカッション 7
9. 文献購読＋グループ・ディスカッション 8
10. 文献購読＋グループ・ディスカッション 9
11. 文献購読＋グループ・ディスカッション 10
12. 文献購読＋グループ・ディスカッション 11
13. 文献購読＋グループ・ディスカッション 12
14. 文献購読＋グループ・ディスカッション 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席・報告内容・ディスカッションへの貢献度によって、総合的に評価する(100%)
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

初回授業で履修者の専門を確認のうえ、指定する。

参考文献 (Readings)

適宜、授業のなかで提示していく。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX107／社会老年学 (Social Gerontology)		
担当者名 (Instructor)	安藤 孝敏(ANDO TAKATOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「高齢社会における高齢者」の理解を中心に据え、社会老年学とはどういう学問であるのかを、自分の博士論文計画と関連させて理解し、それを口頭報告及びレポートで表現できるようになること。

授業の内容 (Course Contents)

この授業は、社会老年学の最新の文献から、受講者が興味・関心のある文献を選んで発表し、その内容についてディスカッションする形式で進める。発表する文献は事前に配布し、当日はその文献の内容をまとめたレジュメなどを用意する。発表する文献は受講者と協議して決定する。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献の発表とディスカッション
3. 文献の発表とディスカッション
4. 文献の発表とディスカッション
5. 文献の発表とディスカッション
6. 文献の発表とディスカッション
7. 文献の発表とディスカッション
8. 文献の発表とディスカッション
9. 文献の発表とディスカッション
10. 文献の発表とディスカッション
11. 文献の発表とディスカッション
12. 文献の発表とディスカッション
13. 文献の発表とディスカッション
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

発表に基づきディスカッションを行うので、発表者は前もって議論すべき論点を整理してくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表資料の準備と発表内容(40%)／ディスカッションへの参加度(40%)／まとめのレポート(20%)
全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

使用しない。

参考文献 (Readings)

授業内で適時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

後期課程の学生は授業でのディスカッションをリードできるよう、積極的に参加すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX108／家族社会学 (Sociology of Family)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「家族の多様化」を考える。(Considering the "Diversification of Family".)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆 (HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、家族と親密な関係についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、「家族の多様化」のあり方を理解、分析するための理論の習得を目指す。

さらに本講義では、それらの理論の応用についても検討する。具体的には、理論の発展可能性の検討、そして政策提言など社会の現場への適用可能性の検討である。海外文献の理論の場合は、国内の理論との関係、また日本社会への適用を考える。

授業の内容 (Course Contents)

近年、欧米先進諸国を中心として「家族の多様化」が注目を集めており、国内外の家族研究ではその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論、政治哲学など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族研究はこうした動向を知ることなしに理解することは難しい。

本講義では、こうした近年の国内外の家族研究の動向を学ぶ。具体的には、研究動向に関する文献や、現代家族の状況に関する質的研究の文献を講読し、ディスカッションする。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 文献の選定と割り当て
2. 文献講読とディスカッション 1
3. 文献講読とディスカッション 2
4. 文献講読とディスカッション 3
5. 文献講読とディスカッション 4
6. 文献講読とディスカッション 5
7. 文献講読とディスカッション 6
8. 文献講読とディスカッション 7
9. 文献講読とディスカッション 8
10. 文献講読とディスカッション 9
11. 文献講読とディスカッション 10
12. 文献講読とディスカッション 11
13. 文献講読とディスカッション 12
14. 文献講読とディスカッション 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告の充実度(35%)/出席、議論の参加(35%)/課題(30%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

1. Deborah Chambers & Pablo Gracia. 2021. A Sociology of Family Life. Polity (ISBN:978-1509541355)
講義中に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX109／宗教社会学 (Sociology of Religion)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	宗教社会学の入門(＊なお、大学院には「[基礎科目としての]宗教社会学[この科目]」「宗教社会学演習」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること)		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代的な宗教社会学の基礎文献の輪読を通じて、宗教と社会の現在について考察する。博士後期課程学生については、より高い達成水準を期待したい。

授業の内容(Course Contents)

草創期の社会学では、宗教とは、消えゆく前近代の秩序を代表するものであり、それゆえに社会学の関心の中心にあった。このクラスでは、基礎科目として、現代社会における宗教を社会学的にどうとらえるのかということを、輪読やディスカッションによって検討する。映像資料を見る回も設ける。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 学生による発表1
3. 学生による発表2
4. 学生による発表3
5. 映像資料1
6. 輪読1
7. 輪読2
8. 輪読3
9. 映像資料2
10. 輪読4
11. 輪読5
12. 輪読6
13. 映像資料3
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

課題文献の読み込み等。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表(50%)／発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物)(50%)
博士後期課程学生には、前期課程学生の模範となるようなコミットメントを期待したい。

テキスト(Textbooks)

随時指示する。

参考文献(Readings)

1. Adam Possamai. 2017. *The i-zation of Society, Religion, and Neoliberal Post-Secularism*. Palgrave Macmillan
2. Adam Possamai. 2009. *Sociology of Religion for Generations X and Y*. Routledge
3. メレディス・B・マクガイア、2008、『宗教社会学：宗教と社会のダイナミクス』、明石書店

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

その他の諸注意:

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX111／産業・労働社会学 (Sociology of Work)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	産業・労働社会学における方法論研究		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

産業・労働社会学における方法論を検討し、理解するとともに将来の研究者としての専門性をはぐくむ。

授業の内容 (Course Contents)

産業・労働社会学において、方法論としてインタビューや参与観察などを用いる質的研究は主流といってもよいほど、多くの研究がある。また多くの名著がある。近年、労働研究にオーラルヒストリーの方法やグラウンデッド・セオリー・アプローチの適用を試みる研究が出て一方、質的研究が少なくなるなど主流ではなくなったという指摘もある。授業では、産業・労働社会学の質的研究の文献を講読し、産業・労働社会学の方法論について検討するとともに、質的研究が少なくなった背景やその原因についても検討する。講読する質的研究の文献は、初回で受講生と相談して決める。

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: 講読文献の紹介
2. 文献講読及びディスカッション
3. 文献講読及びディスカッション
4. 文献講読及びディスカッション
5. 文献講読及びディスカッション
6. 文献講読及びディスカッション
7. 文献講読及びディスカッション
8. 文献講読及びディスカッション
9. 文献講読及びディスカッション
10. 文献講読及びディスカッション
11. 文献講読及びディスカッション
12. 受講生の研究発表
13. 受講生の研究発表
14. 講読諸文献に関する総括ディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で講読する文献を授業前に読んで、コメントを用意すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内発表(50%)／研究発表(20%)／ディスカッションへの参加(30%)
いずれの評価項目についても博士前期課程よりも高い達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

初回で提示する。

参考文献 (Readings)

授業時に随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX112／都市社会学 (Urban Sociology)		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

学部での社会学の学びを前提として、大学院レベルでの都市社会学に関する基本的な視座・理論・方法についての知識を得ること。博士課程前期課程では、都市社会学の基礎から応用までの理論的知識を身につけること、さらに博士課程後期課程では、理論を踏まえて実践を分析する視座を検討する。

授業の内容 (Course Contents)

都市社会学の基本的な視座・理論・方法について、講義および基礎的文献の講読を通して学ぶとともに、ディスカッションなどを通して、都市社会学および現代都市の問題への理解を深めていく。授業の内容については受講者の数、学習レベル、希望などを踏まえて変更することがある。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 講義(1) シカゴ学派の視点その1
3. 講義(2) シカゴ学派の視点その2
4. 講義(3) シカゴ学派の方法
5. 文献講読とディスカッション(1)
6. 文献講読とディスカッション(2)
7. 文献講読とディスカッション(3)
8. 講義(4) 新都市社会学の視点
9. 講義(5) 新都市社会学以降の展開
10. 文献講読とディスカッション(4)
11. 文献講読とディスカッション(5)
12. 文献講読とディスカッション(6)
13. 講義(7) 日本の都市社会学の展開
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定された文献のほか、必要な都市社会学およびその周辺領域の文献を積極的に講読すること。また、授業のディスカッションに積極的に参加して、発言することを求める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

前期課程では、授業への参加状況および中間レポートの総合評価、加えて後期課程では、別途課題を課すなど、高度な達成水準を要求する(100%)

テキスト (Textbooks)

初回の授業時に、受講生の状況および希望を勘案して決定する。基本的には日本語文献を選択する予定であるが、場合によっては英語文献とすることもありうる。

参考文献 (Readings)

1. 松本康編、2022、『都市社会学・入門』改訂版、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22207-6)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX114／メディア社会学 (Sociology of Media)		
担当者名 (Instructor)	井川 充雄(IKAWA MITSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディア社会学の基礎的知識を習得するとともに、その射程の広がりを理解するとともに、自己の研究へ応用する視点をつかむ。

授業の内容 (Course Contents)

メディア社会学とは、きわめて学際的な学問である。近年のメディアの大きな変容とともに、メディア社会学の扱う領域も拡大している。

本授業では、テキストの精読を通して、メディア社会学について多角的に学ぶ。このことによって、履修者は、これから行う自分の研究の基礎を築いてほしい。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『入門メディア社会学』(1)
3. 『入門メディア社会学』(2)
4. 『入門メディア社会学』(3)
5. 『入門メディア社会学』(4)
6. 『入門メディア社会学』(5)
7. 『入門メディア社会学』(6)
8. 『入門メディア社会学』(7)
9. 『入門メディア社会学』(8)
10. 『入門メディア社会学』(9)
11. 『入門メディア社会学』(10)
12. 『入門メディア社会学』(11)
13. 『入門メディア社会学』(12)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深める必要がある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の発表(60%)／授業内の討論(40%)

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する

テキスト (Textbooks)

1. 井川充雄・木村忠正編、2022、『入門メディア社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623094271)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX116／カルチュラルスタディーズ (Cultural Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化に対する批判的研究と、実践のために		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

文化研究(カルチュラルスタディーズ)に関する理論的研究と文化実践を、大学院レベルでおこなっていくための視座を獲得しながら、自身の研究テーマに関する調査や、学術論文・博士論文執筆、学会等での研究発表に生かしていくこと。

授業の内容 (Course Contents)

近現代における諸文化と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する文化批評理論などの理論研究を行うとともに、随時、フィールドワークやグループワークなどを行う。また、各自の問題意識やテーマに基づいた研究発表およびディスカッションなども実施する。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション、研究紹介
2. フィールドワーク準備
3. 文献講読・ディスカッション
4. 文献講読・ディスカッション
5. 文献講読・ディスカッション
6. フィールドワーク／プロジェクト
7. 文献講読・ディスカッション
8. 文献講読・ディスカッション
9. 文献講読・ディスカッション
10. フィールドワーク／プロジェクト
11. 研究発表、グループメンタリング
12. 研究発表、グループメンタリング
13. 研究発表、グループメンタリング
14. グループ・プレゼンテーション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献講読、ならびにグループプレゼンテーションや研究発表では、事前の発表準備等が必須となる。また授業中に取り扱う理論や実践活動に関して、自ら調査を行うことで、授業内容への理解を深めること。さらに、授業内容を学術論文や博士論文執筆、あるいはそれらに向けた調査研究や学会発表などに積極的に生かしながら、自身の研究調査課題を発展・深化させていくことを期待したい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加(文献講読・グループワーク・研究発表・ディスカッションへの参加ほか)(100%)
各評価にあたっては、高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

履修者の関心に合わせ、指定する。なお英語文献が含まれることもある。

参考文献 (Readings)

都度、紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX117／科学技術社会論 (Science and Technology Studies)		
担当者名 (Instructor)	綾部 広則(AYABE HIRONORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

自身の研究テーマと関連づけながら科学技術社会論の基本的な考え方を学ぶ。

授業の内容 (Course Contents)

科学技術と社会に関する講義と基本文献の講読を行う。受講者数にもよるが、最初の数回程度は、科学技術社会論の概略を講義し、その上で、残りを基本文献の輪読にあてる予定(文献についてはオリエンテーションの折に相談して決める)。なお、科学技術と銘打っているが、自然科学・工学に関する予備知識は必要としないので、気楽に受講してください。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 科学技術社会論とは何か(1)
3. 科学技術社会論とは何か(2)
4. 科学技術社会論とは何か(3)
5. 科学技術社会論とは何か(4)
6. 科学技術社会論とは何か(5)
7. 文献講読(1)
8. 文献講読(2)
9. 文献講読(3)
10. 文献講読(4)
11. 文献講読(5)
12. 文献講読(6)
13. 文献講読(7)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

その回で扱う文献について事前に熟読し、論点をまとめておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

討議への貢献度(50%)/割り当てられた文献に関する報告(50%)
いずれの項目についても博士前期課程よりも高い達成基準を要求する。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX118／調査計画法 (Research Design)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	量的調査と質的調査による混合アプローチの可能性		
担当者名 (Instructor)	大崎 裕子(OSAKI HIROKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会調査を実施する際の基本的な事項を理解し、実査に活用できるようになる。

本授業の履修を通して、研究論文執筆において自身の仮説を検証するにあたり、適切な調査を実施し、収集したデータにもとづいて、エビデンスにもとづく科学的な議論ができるようになる。

授業の内容(Course Contents)

社会調査の基本的な考え方及び各種調査手法の特徴を学んだうえで、リサーチクエスションの立て方や仮説の構築、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析、調査結果の報告に至る方法を取得する。あわせて調査倫理についても学ぶ。既存の理論や先行研究を考慮した上で適切な調査を企画・実施できるようになることを目標とする。さらに、量的調査と質的調査を統合した研究計画について学ぶ。

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 社会調査の種類
3. 社会学における理論と検証
4. 社会調査の倫理と今日的課題
5. 量的調査と質的調査の混合アプローチ
6. 調査計画(1): 問題関心と先行研究レビュー
7. 調査計画(2): リサーチクエスションと仮説構築
8. 調査票調査(1): 調査票の設計とワーディング
9. 調査票調査(2): 調査対象とサンプリング
10. 調査票調査(3): データの収集とコーディング・クリーニング
11. 調査票調査(4): データ分析と結果の解釈
12. ヒアリング調査(1): 調査項目の整理、対象者の選定と関係形成
13. ヒアリング調査(2): データ収集と分析結果の整理
14. まとめ: 調査票調査とヒアリング調査の統合的検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・ 量的・質的調査を問わず、自身の研究関心に関連する先行研究を多数読んでおくこと。
- ・ 授業全体をとおして、自身の研究計画にかんする実習課題が出される。授業時間内で完結しない分は、授業時間外に作業を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／授業内提出物(40%)／講義への参加度(30%)

全ての評価方法において、博士課程前期課程よりも高度な達成水準を要求する

テキスト(Textbooks)

1. 轟亮・杉野勇・平沢和司編、2021、『入門・社会調査法[第4版]: 2ステップで基礎から学ぶ』、法律文化社 (ISBN:978-4589041418)

参考文献(Readings)

1. 森岡清志編、2007、『ガイドブック社会調査第2版』、日本評論社 (ISBN:978-4535582460)
2. 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 上』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520263)
3. 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 下』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520270)
4. 松本渉、2021、『社会調査の方法論』、丸善出版 (ISBN:978-4621306314)
5. 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』、有斐閣 (ISBN:978-4641183056)

参考文献は授業時に提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

学部レベルの社会調査法や社会統計学の知識(クロス集計や平均値の比較、分析結果のグラフ作成など)がある事を前提とする。それらについては、各自が自主的に習得しておくこと。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX119／量的分析法 (Statistical Analysis)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学で主流の量的分析手法の基本を掌握		
担当者名 (Instructor)	二階堂 晃祐(NIKAIDO KOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会統計学の基礎を把握しており、比較的踏み込んだ社会学の各種理論や調査手法も学習経験がある事を前提としつつ、高度なレベルにての統計分析技能の習得を目指す。なお、高度なレベルにての習得との意味合いだが、社会科学において、量的研究が主要要素となっている学術論文を執筆出来るレベルを念頭においている。

授業の内容(Course Contents)

授業の直接的な対象は統計学的な手法やその数学的背景だが、運営面での力点は人間の営みを理解する学問としての社会学における応用である。つまり、数値データをもとにして「社会的な想像力」を働かせる能力を向上させられるよう、意識してもらいたい。授業の具体的な内容としては、社会的な観点からのデータの扱い方や解釈、実際にソフトウェア「SPSS」を使用した実習が中心。講義と実習を組み合わせ、信頼性の高い社会調査のデータを実際に使用して各分析手法を体験してもらうのが授業の主要要素となる。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス: 授業の概要と考え方
2. 統計学の基礎復習: 推定や検定など、統計学の基本的な考え方について復習、使用予定ソフト「SPSS」の操作法の基礎復習
3. 分析への基本的な考え方・思想の確認: 単なる数値の処理や純粋に数学的な課題にとらわれず、社会的な意味づけをデータに持たせるために必要な事項の考察、また SPSS 操作法の復習継続
4. 重回帰分析(1): 係数と有意性の解釈とその意味合いの違い、他変数の制御の考え方、ダミー変数の使用、決定係数の意味合い
5. 重回帰分析(2): 交互作用効果の様々な使用法
6. 重回帰分析(3): 回帰診断、独立変数の選択の仕方(モデル構築の手法)
7. ロジスティック回帰分析(1): 質的変数を従属変数とするために、オッズ比を使用した結果の解釈の仕方とその社会的な意味合い
8. ロジスティック回帰分析(2): 質的変数を独立変数として使用する時の注意点、多重ロジスティック回帰分析と変数選択の方法
9. ロジスティック回帰分析(3): さらなる発展と応用のために～順序ロジスティック回帰や多項ロジスティック回帰の考え方と適切な使用法、それぞれの役割分担
10. ログリニア分析(1) 質的変数同士の相関の分析について、基本的な解釈の仕方とモデルの適応度の判断の仕方
11. ログリニア分析(2): より複雑なモデルの解釈の仕方、クロス表の観察／分析とログリニア分析の関係
12. 更なる質的変数の分析について: ロジスティック回帰分析、クロス集計表の分析、ログリニア分析の使い分けと役割分担、ログリニア分析における変数の相関の強さの探索
13. コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析と数量化理論: 質的データの視覚化、有意性検定を伴わない分析手法の考え方と使用法について
14. 因子分析とクラスター分析: 多くの変数の情報をまとめ簡素化を目指す考え方、社会学における応用の可能性

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

原則、2回のレポートを予定しており、一週間程度の期間での作業となる。復習、予習がどの位必要かは社会統計学の事前知識がどの程度あるかにも左右されるが、一般論としてはある程度の時間をみておいてほしい。また、授業で必要となる社会調査等のデータはいくつか講師側で用意するが、既に自身で分析してみたいデータがあればそれを持ち込んでもらってもよい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 中間レポート(評価方法については前期課程履修者と比較して、高度な達成水準を要求する場合がある)(40%) / 出席点、コメントカード、授業参加(授業参加については前期課程履修者よりも、授業内にて指導的、もしくは講師の補佐的役割を期待する場合がある)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 三輪哲・林雄亮、2014、『SPSS による応用多変量解析』、オーム社 (ISBN:978-4-274-05011-4)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	SX120／質的分析法 (Qualitative Research)		
担当者名 (Instructor)	小林 多寿子(KOBAYASHI TAZUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC7010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

質的調査研究の系譜をたどり、社会学における質的調査を概観的に把握したうえで、質的調査の方法や分析について具体的な事例をととして学び、質的調査研究の基礎力と実践力を身につけることをめざす。自らの研究テーマに引き付けて、質的分析法を応用したリサーチデザインする力を培う。

授業の内容 (Course Contents)

社会調査法における質的研究に焦点を合わせ、質的研究の系譜をたどり、近年の質的研究成果を概観しながら、質的研究の事例をととして多様な質的方法の実践について学ぶ。フィールドワークから質的データの収集、分析、解釈、論文の作成に至るまでの社会調査の全過程を、さまざまな文献をもとに検討・討議する。昨今は、社会調査において調査倫理が不可欠となっているので、調査協力者と調査者の関係や当事者研究などの可能性についても検討する。ライフストーリー調査の方法論を基礎に、フィールドワークの方法、インタビュー法、ナラティブ論、エスノグラフィの書き方などが検討、考察の焦点となる。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション: 授業の進め方
2. 質的データとは何か: 個人記録、文書資料、新聞雑誌記事、音声、映像など
3. 質的調査の系譜: 社会学における質的調査への道
4. 質的調査法の種類: ドキュメント分析、ライフヒストリー/ライフストーリー法、参与観察など
5. 質的調査の技法: フィールドワークの方法
6. 質的調査の技法: 多様なインタビュー法—相互行為としてのインタビュー
7. 質的調査の技法: 「人生」へのアプローチ—ライフヒストリー/ライフストーリーの考え方
8. 質的調査の技法: アーカイヴ調査とアーカイヴ資料の可能性
9. 質的データの分析・解釈: フィールドノートとトランスクリプト
10. 質的データの分析・解釈: 語りの社会的・文化的文脈
11. 質的データの分析・解釈: 「分厚い記述」と生活世界へのまなざし
12. 調査実践と調査倫理の諸問題
13. 受講生による調査計画と調査方法: リサーチデザインと成果の呈示
14. 全体のふりかえりと質的調査の課題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

基礎的な関連文献を読むこと、各自の研究テーマを深めること

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業への参加度(30%)/授業内報告(30%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. 小林多寿子編、2010、『ライフストーリー・ガイドブック』、嵯峨野書院 (ISBN:978-4-7823-0509-6)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

